

提 案 書

～まちの課題とその解決策～

～市民等と行政の連携をより進めるために～

令和3年12月

自分ごと化会議 in 長岡京

《 目 次 》

<はじめに>

<提案書の構成> - 1 -

第Ⅰ章 市民等と行政の連携をより進めるために - 2 -

1 情報発信・共有に関する事 - 2 -

(1) 市民等と行政が連携・協力した活動を知らない市民が多くいる - 2 -

(2) SNS や HP など WEB 媒体を活用した情報共有が不十分 - 2 -

(3) 行政サービスの制度を知らない人たちがいるので、地域が協力して周知する - 2 -

(4) 災害時に向けた要配慮者の情報の扱いについて地域と行政が協議できてない - 3 -

2 地域の人材に関する事 - 3 -

(1) 市民等と行政の連携・協力の活動に多様な市民（多世代・異業種など）を
巻き込めていない - 3 -

3 各地域活動団体や場づくりに関する事 - 4 -

(1) 行政から地域活動団体への依頼内容や補助金等を見直す - 4 -

(2) 行政サービスを充実させることにも懸念点がある - 4 -

(3) 市民等と行政の連携・協力した活動の場にわくわく感を持たせられてない - 4 -

(4) 企業や学校との連携をさらに進めていく - 4 -

(5) 各地域活動団体と行政がどのように連携しているのか、わからない - 4 -

(6) 個人、地域、民間と行政が繋がり合える場が必要 - 5 -

4 市民等と行政の連携・協力した活動に関する事 - 5 -

(1) 連携・協力した活動をビジョンや計画を持ち、進められていない - 5 -

(2) 【具体事例】ごみ管理について自治会長にどこまで権限があるのか分からない - 5 -

(3) 【具体事例】小畑川クリーン作戦が、清掃活動の継続に繋がっていない - 5 -

(4) 【具体事例】地域や警察、行政が連携して、地域の防犯力を高められないか - 6 -

(5) 【具体事例】学習をサポートする場を地域、行政、NPO 等が連携して作れないか - 6 -

5 その他 - 6 -

(1) 市民のライフスタイルの変化を捉えた市民等と行政との連携・協力の場や
活動にしていく - 6 -

第Ⅱ章 自治会など地域コミュニティ(共助システム)の課題 - 7 -

1 自治会の課題 - 7 -

(1) 自治会には排他的な風土がある - 7 -

(2) 新しく引っ越してきた方と昔から住んでいる方が混在している地域では
自治会運営が難しい - 7 -

(3) 自治会の加入率が下がり、会員の負担が大きくなっている - 7 -

| | |
|------------------------------------|--------|
| (4) 自治会がないところでは、その機能を担う団体が必要である | - 8 - |
| (5) 自治会の活動内容が知られていない | - 8 - |
| (6) 新型コロナウイルスの影響を受けて、自治会活動が行えていない | - 8 - |
| (7) 自治会の役割や活動について再検討する | - 8 - |
| (8) 自治会とその他の地域活動団体との横のつながりを作っていく | - 9 - |
| 2 地域コミュニティ協議会の課題 | - 10 - |
| (1) 活動がわかりづらい | - 10 - |
| 3 各地域活動団体の連携の課題 | - 10 - |
| (1) 各地域活動団体がどのように連携しているのか、わからない | - 10 - |
| | |
| 第Ⅲ章 まちづくりの担い手ごとに“できること” | - 11 - |
| 1 テーマ別班構成とまちの課題 | - 11 - |
| 2 課題別「まちづくりの担い手ごとに“できること”」 | - 12 - |
| 3 テーマや課題を横断した「まちづくりの担い手ごとに“できること”」 | - 26 - |
| 4 自治会など地域コミュニティ（共助システム）の弱体化への対応 | - 30 - |
| | |
| 第Ⅳ章 自分ごと化会議の開催概要と班別議論等 | - 31 - |
| 第1班 環境保全 | - 31 - |
| 1 会議開催概要 | - 31 - |
| 2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～ | - 33 - |
| 第2班 防災・防犯 | - 50 - |
| 1 会議開催概要 | - 50 - |
| 2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～ | - 52 - |
| 第3班 高齢者 | - 64 - |
| 1 会議開催概要 | - 64 - |
| 2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～ | - 66 - |
| 第4班 子ども・子育て | - 80 - |
| 1 会議開催概要 | - 80 - |
| 2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～ | - 82 - |

<はじめに>

自分ごと化会議 in 長岡京（以下、「自分ごと化会議」という。）は、（仮称）長岡京市自治振興条例の策定検討に資する意見聴取のために組織され、主権者である「市民」、自治会や地域コミュニティ協議会などの「地域」、民間企業やNPOなどの「民間」、「行政」（長岡京市）の「まちづくりの担い手」ごとの課題と課題解決策、さらにはそれらの連携の課題と解決策について議論を重ねてきました。

自分ごと化会議は、無作為に抽出された2,300人の中から応募いただいた68人と、自治会、地域コミュニティ協議会、民生児童委員、NPOなどから長岡京市が選任した32人、長岡京市の有志職員で構成されるプロジェクトチームのメンバー9人の、109人により組織され、令和2年12月12日に第1回目を開催し、これまでの5回の会議を開催してきました。

自分ごと化会議は、それぞれ27名程度の4つの班に分け、1班が「環境保全」、2班が「防災・防犯」、3班が「高齢者」、4班が「子ども・子育て」について、それぞれ活発な議論を行ってきました。

この間、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から委員が一同に会し議論を行うことが難しい状況の中、日程の変更を含め様々な対策を講じながらも、対面での会議をそれぞれ5回開催し、今般、その議論をまとめた本提案書を長岡京市並びに長岡京市自治振興条例検討委員会に提出することといたしました。

この提案書が、条例策定検討に資することに限らず、今後行政の施策等の検討の際、有効にご活用いただけることを切に望みます。

令和3年12月1日

自分ごと化会議 in 長岡京 メンバー一同

＜提案書の構成＞

本提案書は、4章立てとしました。それぞれの章の目的と内容は、次のとおりです。

第Ⅰ章

自分ごと化会議において重ねてきた議論とメンバーから提出された改善提案シートの意見のうち、行政とまちづくりの担い手たちの連携に関するものを抽出し、分類して、第Ⅰ章としました。

(仮称)長岡京市自治振興条例の策定検討のためには、行政とまちづくりの担い手たちの連携の課題と解決策を考えることが不可欠であるとの思いから、その議論を通して得た意見を抽出、分類して掲載したものであり、条例の策定検討に資するため、長岡京市自治振興条例検討委員会に提出します。条例策定検討に有効活用いただくことを望みます。

第Ⅱ章

自分ごと化会議では、自治会など地域コミュニティの弱体化について多くの意見と議論がありました。

自分ごと化会議で特にクローズアップされた地域コミュニティ（共助システム）を構成する自治会及び地域コミュニティ協議会のそれぞれの課題と各地域活動団体の連携の課題について、その意見を分類してまとめ、第Ⅱ章としました。

第Ⅲ章

第Ⅳ章に記載した班別、課題別、個別課題別の解決策（“できること”）を集約、分類し、整理しました。さらには、これに横串を刺し、班、課題、個別課題を通した担い手ごとに“できること”を整理し、第Ⅲ章としました。

第Ⅰ章同様、(仮称)長岡京市自治振興条例の策定検討に資するため、長岡京市自治振興条例検討委員会に提出し、併せて、第Ⅳ章と同様に、今後行政の施策等の検討の際、有効にご活用いただくため、長岡京市に提出します。

第Ⅳ章

4つの班のテーマごとに、これまで重ねてきた議論と提出した改善提案シートの意見を各班5つの課題に分類し、「市民」、「地域」、「民間」、「行政」の「まちづくりの担い手」ごとの解決する方法（解決策）、まちづくりの担い手の連携の課題と解決策を可能な限り掲載しました。紙面等の制約があり、すべての意見を掲載できてはいないのですが、自分ごと化会議メンバーの生の声をできる限り掲載しました。

今後、行政の施策等の検討の際、有効にご活用いただくため、長岡京市に提出します。

できる限り多くの意見が行政の施策等に活かされることを望みます。

第 I 章 市民等と行政の連携をより進めるために

本章は、自分ごと化会議のこれまで重ねてきた議論（意見）や提案に基づき、市民、自治会、民間、NPO 等（以下「市民等」という。）と行政が、それぞれが“できること”の連携・協力を促進する上での課題と改善提案をまとめたものです。

具体的には、第IV章の班別課題別解決策の中で掲載している《行政と協力・連携する上での課題や解決策等》の意見や提案を、課題ごとに分類して列記しています。各意見や提案の末尾に【 】書きとして、引用した第IV章の班、課題、その頁を記載しました。

（仮称）長岡京市自治振興条例の策定検討に有効活用いただくことを望みます。

1 情報発信・共有に関すること

（1）市民等と行政が連携・協力した活動を知らない市民が多くいる

- 長岡京市に住んでいても知らないことがたくさんある。（西山の取組みや課題など）どこでどうやって知れるのかが分からない。市役所に行かなければ知ることができない情報であれば、大多数の人は知らないと思う。【1班課題5(48頁)】
- 集団より個人が大事な時代。集まって森林のことを議論するなどの機会が乏しい。西山の課題は、自分も今回（自分ごと化会議で）初めて知り、貴重な機会だった。みんながこういう会議に参加するわけではないので、情報が得にくいのではないか。【1班課題4(46頁)】
- 市民団体の担う公的な活動を認定することで、高齢化の進む自治活動の活性化を図る。【4班課題1(84頁)】
- 市は「困ったことがあれば相談してください」と言っているが、市民に伝わっていないと思う。【4班課題4(94頁)】
- 長岡京市に長く暮らしていても、行政と連携する地域の組織のことについて知らないことが多く、地域活動にも参加できないでいる。【4班課題3(89頁)】

（2）SNS や HP など WEB 媒体を活用した情報共有が不十分

- 今はインターネットが発達しているので、情報はいつでも取れる。森林など問題になっていることを現代の技術である ICT や SNS を使って目に触れる機会を作ればいいと思う。市役所は気楽にいくところでもないのに、掲示板や SNS で情報発信できる機会を増やすとよいのではないか。【1班課題5(48頁)】
- ホームページや SNS は、スマホ・パソコンを持っていない方は利用できない。そういった方も含めて、どうすれば伝わるのか。世代によって情報を取得する媒体が違う。【4班課題2(87頁)】
- 行政情報の発信ツールの対象者や効果を見直し、ICT を活用したツールだけではなく掲示板等アナログなツールの工夫もする。【1班課題5(48頁)】

（3）行政サービスの制度を知らない人たちがいるので、地域が協力して周知する

- 既存の行政の制度や事業があるが、それらを知らない人たちがいる。制度を知らない人た

ちに、地域の人が教えて、制度とつなげてあげる。【3班課題5(78頁)】

(4) 災害時に向けた要配慮者の情報の扱いについて地域と行政が協議できてない

- 災害時における要配慮者がどうやって避難するのが曖昧であるため、行政と地域がしつかりと協議を行い、自治会が要配慮者名簿の内容を把握する必要がある(現在、要配慮者名簿は自治会長が情報共有しているが、取り扱い方、活用方法の検討が必要)。【2班課題3(60頁)】

2 地域の人材に関すること

(1) 市民等と行政の連携・協力の活動に多様な市民(多世代・異業種など)を巻き込めていない

- ボランティア精神を持った実行力のある前向きなリーダーまたは個人と行政がより連携する必要がある。【1班課題3(42頁)】
- 学生などに参加を呼びかけ、ボランティア養成講座を市民団体と市が連携して行い、ボランティア活動をする場所も整える。【1班課題3(43頁)】
- 西山森林整備推進協議会の活動にはボランティアだけでなく、福祉施設とも連携し、障がいのある人にも社会参加の機会を作る。【1班課題4(46頁)】
- 西山の放置竹林等の課題を考えるにあたっては、環境教育しかり、多様な住民が関わることができると会議を設ける。西山の課題解決(出口)を防災や観光、環境などと結びつけて考える。【1班課題4(46頁)】
- 今回(自分ごと化会議)のように若い人や企業の方が入るパートナーシップ会議のようなものがあればよい。【1班課題1(37頁)】
- 学校に在籍している人に参加してもらいやり方も良いと思う。卒業したらそれっきりになってしまうので、市民と行政が自発的に関わるという趣旨からは外れるが、そのほうが効率的ではないかと思う。【1班課題1(36頁)】
- 地域に社会課題解決に取り組む市民(団体)をみんなで育てる(地域課題は地域で解決する。人材の地産地消)。【2班課題1(55頁)】
- 自分の将来に関わることなど、「参加するとこんな良いことがある」ということをわかるようにする。【3班課題1(69頁)】
- 幅広い人に参加してもらうために企画した行事なのに、結果的に同じ人ばかりという状況がある。【3班課題1(69頁)】
- 長岡京市の市民は色々と新しいことに挑む人が多いので、(市民等と行政の連携活動に参加してもらえるように)支援をしていくことが大事。【4班課題1(84頁)】
- 今回の会議の無作為抽出のように、自分から動かなくても、案内があれば動くという人は多いと思う。【4班課題1(84頁)】

3 各地域活動団体や場づくりに関すること

(1) 行政から地域活動団体への依頼内容や補助金等を見直す

- 行政から自治会への依頼事項や補助金を見直す（依頼事項の中で、シルバー人材センターなど民間に任せられること、自治会でやることなどを整理）。【1班課題1(36頁)】
- 地域活動団体へのサポートをさらに充実させる必要がある。しかし、そもそもお金や人材、場所に関するサポートがあるということが知られていない。【4班課題2(87頁)】

(2) 行政サービスを充実させることにも懸念点がある

- 行政サービスを充実させることはもちろん大事だが、集団回収など地域の人たちの力によって行われていたことを、すべて行政に任せて、地域の人に頼らなくなった場合、その分、今まであった地域の助け合い、繋がりなくなる恐れがある。地域のつながりは一度なくなると再び築くのは困難である。結果として自治会の存続や行政の赤字に繋がる。【3班課題4(76頁)】
- ふれあい収集の制度は初耳だった。知らない人が多いと思う。地域力によって、ごみ収集の課題を解決する、素晴らしい取り組みだと思う。これらを行政に任せてしまうことはどうかと思う。集団回収など地域の人たちの力によって行われていたことを、すべて行政に任せて地域の人に頼らなくなった場合、その分、今まであった地域の助け合い、繋がりがなくなる虞（おそれ）がある。地域のつながりは一度なくなると再び築くのは困難である。結果として自治会の存続や行政の財政負担も増える虞（おそれ）がある。【3班課題5(78頁)】

(3) 市民等と行政の連携・協力した活動の場にわくわく感を持たせられてない

- 場所や機会づくりだけでなく、わくわく感を持たせるような時代にあったイベントを、自治会や地域コミュニティ協議会と市と一緒に作っていけないか。【4班課題1(84頁)】

(4) 企業や学校との連携をさらに進めていく

- 地域活動について、長岡京市は大企業もたくさんあるので、企業の方に協力してもらうのはいいことだと思った。どの企業も地域をよくするための取組みはしているはず。私も仕事の関係で京都の鴨川清掃や祇園祭りのごみ拾いに参加したことがあるので、企業を使うというのも一つの手段かと思う。また、市内の中学生や高校生に、授業の一環として参加してもらうのはどうか。【1班課題3(43頁)】

(5) 各地域活動団体と行政がどのように連携しているのか、わからない

- 自治会、地域コミュニティ協議会など地域活動団体と行政がどのように繋がっているのか、命令系統がどうなっているのかをはっきりさせる。【2班課題1(55頁)】
- 行政と地域コミュニティ協議会、その他各地域活動団体の役割を明確にし、お互いのメリットを理解する。【4班課題3(89頁)】
- 行政、市民団体、民間企業、その他外部支援機関が連携し、地域の支援を必要とする親子

に、しっかりと支援が行き届くようにするためには、それぞれの役割を明確にする必要がある。【4班課題4(94頁)】

(6) 個人、地域、民間と行政が繋がりが合える場が必要

- 地域で困っていることがあっても、どうしていいのわからない人もいると思う。そんなことを一括して話せる行政窓口の人がいると、地域のつながりを作りやすいと思う。個人も地域も民間も行政も人と人との繋がりがだと思ふ。【4班課題2(87頁)】
- 子育て世代の願いや意見を教育・福祉などの市政に反映していただくために、市民と専門家による意見交換や情報提供の場を定期的に(時には状況に応じて臨時に)設定する。【4班課題4(94頁)】
- 子どもが伸び伸びと遊べる場や勉強できる場が減り、また、子ども会や自治会を退会する親子も増えている。そのため親同士、子ども同士が交流する場が減っており、地域のつながりの希薄化が進んでいる。行政と民間が連携して、子どもの居場所作りができないか。【4班課題5(97頁)】

4 市民等と行政の連携・協力した活動に関すること

(1) 連携・協力した活動をビジョンや計画を持ち、進められていない

- 個人、地域団体、行政それぞれの関われる部分や、簡単にできる部分や専門性がある部分など棲み分けが必要。すぐ解決できないものもあるので、長期的なビジョンを持って協議をしていく必要がある。【1班課題1(36頁)】
- 娯楽が増えて個人の幸せが大切な時代に、地域の運動会は尊いがこれからの時代に必要かなど、そうしたことを考えるにあたって「上手くいった事例の共有」が大切。そのためにもPDCAサイクルを回して、うまくいったことを残す。【3班課題1(69頁)】

(2) 【具体事例】 ごみ管理について自治会長にどこまで権限があるのか分からない

- 自治会長に相談や苦情が寄せられるが、ごみ管理について自治会長にどこまで権限があるか分からない。ごみの問題は自治会長の仕事なのか？苦情処理係になってしまい、いやになると思う。【1班課題2(40頁)】

(3) 【具体事例】 小畑川クリーン作戦が、清掃活動の継続に繋がっていない

- 小畑川クリーン作戦と市のごみゼロ運動には参加や周囲への声掛けをしている。イベントとしてその日は一生懸命清掃をするが、その後、そういった活動を日頃から継続に行っている方が増えているわけではないと思う。【1班課題3(42頁)】
- 小畑川を開放する日に、年間数日はバーベキューを可能にすれば、小畑川の環境に関心が集まり、小畑川クリーン作戦などゴミ清掃への若者、家族での参加が増えるのではないか。【1班課題3(42頁)】

(4) 【具体事例】 地域や警察、行政が連携して、地域の防犯力を高められないか

- 高齢者の外出機会を増やしていく（自宅から行ける範囲に居場所）取組みをしたり、行政や地域、警察、また警察OBが連携した見回りシステムの導入を検討したりする。【2班課題4(62頁)】
- 防犯灯の設置を依頼することが難しい人や自分の周辺に防犯灯が少ないことを知らない人もいると思うので、行政や各自治会は、市民への声掛けをして連携していくことが必要ではないか。【2班課題4(62頁)】

(5) 【具体事例】 学習をサポートする場を地域、行政、NPO等が連携して作れないか

- 各家庭において、学習塾等の教育費の負担が大きくなっている。地域と行政、NPO等が連携して、地域の中で学習サポートの会などの家庭学習支援や、スマホ・パソコンなど各種教室の開催。また、パソコンの貸出などできる仕組みを作る。【4班課題5(97頁)】

5 その他

(1) 市民のライフスタイルの変化を捉えた市民等と行政との連携・協力の場や活動にしていく

- 昔は共同体そのものが生産の場であったので、共同体のルールを守らなければ生きていけなかった。今は生産の場ではなく生活の場。共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないか。【1班課題1(37頁)】
- 子ども会に参加するメリットが変わってきていると思う。学童保育は放課後に子どもを預かってもらえるが、子ども会で放課後の居場所があればメリットになる。保護者と子どものニーズが変わってきている。【4班課題5(97頁)】

第Ⅱ章 自治会など地域コミュニティ(共助システム)の課題

自分ごと化会議の議論において注目すべきは、どの班においても「自治会など地域コミュニティ(共助システム)の弱体化」を課題としたことです。主たる原因は、高齢化や価値観の変化、ライフスタイルの変化による担い手不足だと考えます。

以下は、自分ごと化会議で特にクローズアップされた地域コミュニティ(共助システム)を構成する自治会及び地域コミュニティ協議会のそれぞれの課題と各地域活動団体の連携の課題について、その意見を分類してまとめたものです。

各意見や提案の末尾に【 】書きとして、引用した第Ⅳ章の班、課題、その頁を記載しました。

1 自治会の課題

(1) 自治会には排他的な風土がある

- 私の姉の地域では、何軒かが一斉に建て替わって子供連れの家族が引っ越してきた時に、挨拶に行っても昔から住んでいる方は排他的であると聞いた。自治会に入っていないと、ごみ捨てや子供会を別にされることも。若い世代で入りたくても入れない状況がある。【3班課題2(70頁)】
- 自治会の立場からすると、新しく引っ越された方には自治会加入の呼びかけや行事の参加の声掛けはしている。でも来てくれない。最初は敬遠していても、班長をして運営に携わることで楽しさに気付くこと方もいる。閉鎖的で入らないというケースもあると思うが、排除していなくても、食わず嫌いのような感じで敬遠されることもある。【3班課題2(71頁)】

(2) 新しく引っ越してきた方と昔から住んでいる方が混在している地域では自治会運営が難しい

- 自治会のなかでも、歴史や背景などに差があり一括りにはできない。長岡京市になってから開発が進んだところは、新しい人が中心になった組織になっている。新しく住まれた方と昔から住まれている方が混在している地域は自治会の運営が難しい。私の住んでいるところは、まさにそういった地域。自治会の役をやっているが、新しい方と古い方を繋ぐつなぎ役が必要。自治会の運営はやはり古くから住んでおられる人達が主となっている。自治会館の土地や建物は昔の人が出し合ったものだし、神社の氏子もそういった人が担ってきたもの。新しい人との分断がある。ここの融合が課題。【3班課題2(71頁)】

(3) 自治会の加入率が下がり、会員の負担が大きくなっている

- 高齢になると自治会を辞めていかれる。今の自治会員で辞めた方までカバーしていくのは非常に難しい。市も自治会も民生委員も対応できない。【3班課題1(67頁)】
- 自治会で追加のイベントなど何かやろうとしても先立つものがない。(自治会に入っていない人の)意識改革も隣近所が案内しても難しい。そういった煩わしさから逃れてきた人に、煩わしい行事に参加してくれと言っても動くとは思えない。【3班課題2(71頁)】

- 若い働き世代は共働きが多く、PTA や学童の役員をされている方が多い。そこに地域の活動もとなると負担が大きい。役員の負担をどう減らしていくかを考えた方が地域の活動の活発化に繋がるのではないか。【4班課題1(83頁)】
- 自治会に入るのもハードルが高い。PTA ですらハードルが高い。役をやらなければいけない。仕事をしながらコミュニティの仕事もやるのは厳しい。【4班課題1(83頁)】

(4) 自治会がないところでは、その機能を担う団体が必要である

- 梅が丘では自治会がない。自治会がないと運動会の参加者などを募る手段がない。やはり自治会か、その機能を担う団体は必要だと思う。子供会はPTAの方が熱心にやられているので続いている。老人会もなんとか続いている。とにかく人集めが大変。人を知らないから探すのが難しい。【3班課題1(68頁)】
- わたしの住んでいる地域は、自治会はないがこども会の活動は活発。子どもの保護者が運営している。ただ、自治会がないと縦の関係がなくなる。【3班課題1(68頁)】
- 自分の地域では、自治会はないが向こう三軒両隣の会というものをつくっている。働いている世帯は、その妻が参加し、退職後の世帯は夫婦そろって参加することある。【3班課題1(68頁)】

(5) 自治会の活動内容が知られていない

- 2年ほど前に引っ越してきたが、自治会があることも知らない。引っ越した際に隣近所に挨拶をしても、そのあとの繋がりが無い。まわりは30から40代の子育て世帯で自分は子どもがいないので、親同士の付き合いにも入れない。自治会に入りませんかという案内もない。【3班課題1(67頁)】

(6) 新型コロナウイルスの影響を受けて、自治会活動が行えていない

- 自治会の活動は中止や書面会議になっている。組長会は全体で行うと密になるため、2班に分けて行っている。自治会内で顔を合わせる機会が少ないので、役員同士の意思疎通が希薄になっている。老人クラブ、サークル等の活動も自粛している。【3班課題1(69頁)】

(7) 自治会の役割や活動について再検討する

- 自治会が要らないとは思わないが、必要性がなければ時代とともに淘汰されていくと思う。私も地元の人間。困ったことや情報を得たいときは自治会より市役所に行く。市役所は正確な情報が取れる利便性がある。近所に聞きに行くことがない。自治会の運営を強化するよりも、行政サービスの充実にお金を使った方がいいと思う。困ったことがあっても、個人で情報が簡単に取得できる時代なので、自治会の立場が弱体化している。今までどおりではいけないと思う。【2班課題1(54頁)】
- 自治会長をしている。何かしようとしても、コロナ等で集会、催し物ができない。できないからこそ自治会活動について考える機会に。自治会の目的は安心して暮らせる地域づくりだと思っている。行事をやることでどんな方がどこに住んでいるのかを確認することができる。住民が、直接市役所に意見を言っても、市としても動きにくい、自治会で住民

の意見をまとめて市に伝えると、市も動きやすい。【2班課題1(54頁)】

- 京都市内で生まれ育ち、親が自治会長をしていた。自治会の入って当たり前という地域だった。結婚して現在住んでいるところはマンションなので自治会には入っていない。夫婦二人共働きで、日中ほとんど家にいないので、自治会がなくても困っていない。子どもができれば変わるかもしれないが、状況によって、必要なコミュニティは変わってくる。【2班課題1(55頁)】
- 自治会が本当にいるのか。若い人は興味ない人が多いと思う。自治会など、箱を多く作って動かそうとするから無理がある。中間とりまとめに自治会のことが記載されているが、行政以前に地域だけで解決できる話もある。自治会を作っても、やらされているだけの人が多い。なんでも自治会を通してやるというのは無理がある。【3班課題1(69頁)】
- 昔のおりにしようとするとうまくいかない。自治会は変えないといけないし、そもそも必要なのかという議論もしないといけない。【4班課題1(83頁)】
- 自治会の運営をNPO法人に委託しているところもあるらしい。自治会や子ども会の運営を委託すれば、役員の負担などの問題は解決するが、委託料をどうするかが問題(会費で賄えるか)。担い手がいない地域では、近い将来そういった運営になっていくかもしれないが、そうすると自治会組織の存在感が薄れ、果たしてそれが自治会といえるのか。【4班課題1(83頁)】

(8) 自治会とその他の地域活動団体との横のつながりを作っていく

- 「久貝安心暮らしっく熟」を自治会活動に縛られずに横のつながりを作れないかという観点から立ち上げた。月に数回、地域の専門職の方(事業をしている方、住職など)に講師として話してもらった活動で、50名ほどが参加している。そこでの経験から、市全体として何がどう良くなったのか、具体的な評価軸があれば、様々な活動をつくりやすいのではないかと。指標の例として、地域の要介護認定を受ける平均年齢を下げるなど。【3班課題1(69頁)】
- 自治会は地縁型組織なので、その地域のありとあらゆること(防災・防犯・環境・子育て・福祉など)をしないとけない。一方で各分野に専門性を持ったテーマ型組織がある。自治会だけでは手が回らないので、こういった組織に外注する。地縁組織とテーマ型組織の結節点をどれだけ増やしていけるかが、今後の地域の勝負だと思っている。【4班課題1(84頁)】
- 保護者の団体は、自分の子どもが成人しても続けられるかという、厳しい。当事者だから活動できる。ノウハウが蓄積されているので、地域としては続けてほしい。そのためには続けられる資金と実入りがないとけない。【4班課題4(92頁)】

2 地域コミュニティ協議会の課題

(1) 活動がわかりづらい

- 防災訓練は自治会が実施しているところや地域コミュニティ協議会を実施しているところがある。これをすべて地域コミュニティ協議会の役割とし、自治会の負担にならないようにする。【1班課題(36頁)】
- 地域住民から見たときに地域コミュニティ協議会が何をやっているのかが見えにくいのかなと感じる。自治会が最小単位だと思うので、自治会の活動が地域の皆さんからよく見えるようになって、それが地域コミュニティ協議会の活動につながるのが理想だと思う。防災の活動など、単独の自治会だけでは難しい取り組みを横断的に行うのが地域コミュニティ協議会としての役割だと考えている。【3班課題1(68頁)】
- 地域コミュニティ協議会は自治会と同じなのかなと思っていた。引っ越してこられた方向けに、簡単に地域コミュニティ協議会とは何かを説明するお知らせがあってもいいのではないか。【3班課題1(69頁)】
- 地域コミュニティ協議会は、自治会が中心となり年配の方が頑張って運営されているが、子育て世代があまり理解できていない。【4班課題3(88頁)】
- 地域コミュニティ協議会の活動内容を具体的に伝える場、方法が必要。【4班課題3(88頁)】
- 地域コミュニティ協議会がもっと権限を持てば情報発信がやりやすいのではないかなと思う。権限と役割をもっと明確に示した方がいいと思う。【4班課題3(88頁)】

3 各地域活動団体の連携の課題

(1) 各地域活動団体がどのように連携しているのか、わからない

- 自治会、地域コミュニティ協議会など地域活動団体がどうつながっているのか、命令系統がどうなっているのかははっきりさせる。【2班課題1(55頁)】
- 自治会や地域コミュニティ協議会、その他、地域活動団体の連携ができていない。【3班課題1(68頁)】
- 市が中心となり、地域活動組織の情報を一元化する。【4班課題2(86頁)】
- 地域コミュニティ協議会への市民団体の参加を推進する。【4班課題2(88頁)】
- 地域コミュニティ協議会、その他各地域活動団体の役割を明確にし、お互いのメリットを理解する。【4班課題3(89頁)】
- 団体(行政、市民団体、民間企業、その他外部支援機関)や地域の支援を必要とする親子に、しっかりと支援が行き届くようにするためには、それぞれの役割を明確にする必要がある。【4班課題4(94頁)】

第Ⅲ章 まちづくりの担い手ごとに“できること”

これまで自分ごと化会議で議論してきた「まちの課題と解決策」の「解決策」は、まちづくりの担い手たちの義務についての議論ではなく、まちづくりのために市民をはじめその担い手たちが“できること”は何かを考え、それを提案しようとするものです。

本章では、第Ⅳ章に記載した班別、課題別、個別課題別の解決策（“できること”）を集約、分類し、整理しました。さらには、これに横串を刺し、班、課題、個別課題を通した担い手ごとに“できること”を整理しました。

条例策定検討に有効活用いただくことと併せて、行政の施策等の検討の際、有効にご活用いただくことを望みます。

1 テーマ別班構成とまちの課題

自分ごと会議では第Ⅳ章に掲載したとおり、テーマ別に4つの班を構成しましたが、それぞれの班で議論したテーマごとのまちの課題を要約すると、次のとおりです。

第1班 テーマ：環境保全

- 課題1：共助システムの弱体化と負担増、地域活動の多様化
- 課題2：ごみステーションのマナー低下
- 課題3：環境保全意識の低下
- 課題4：環境課題の認知度の低下、活動参加者の意識格差
- 課題5：知る機会の少なさ・情報不足

第2班 テーマ：防災・防犯

- 課題1：共助システムの弱体化
- 課題2：防災意識の低下
- 課題3：要配慮者に対する支援体制の脆弱さ
- 課題4：防犯意識の低下
- 課題5：地域住民間の情報交換機会の低下

第3班 テーマ：高齢者

- 課題1：高齢化に伴う自治会の弱体化（担い手不足）
- 課題2：世代間の交流、新旧住民の交流の不足
- 課題3：老後を楽しむための環境の不足
- 課題4：地域での見守り、支え合いの脆弱さ
- 課題5：外出困難者のサポート不足

第4班 テーマ：子ども・子育て

- 課題1：共助システムの弱体化（担い手不足）
- 課題2：地域活動情報や行政情報が伝わらない
- 課題3：地域活動組織の役割が不明瞭、団体間の連携不足
- 課題4：子ども同士や親同士が交流する場がない
- 課題5：子どもの居場所が少ない

ここで注目すべきは、第Ⅱ章で前述したとおり、どの班においても「自治会など地域コミュニティ（共助システム）の弱体化」を課題としたことです。主たる原因は、高齢化や価値観の変化、ライフスタイルの変化による担い手不足だと考えます。

自治会加入率が55%を下回り（令和元年4月1日現在）、長岡京市（行政）も深刻な問題と認識されていますが、市民の生活実感においてもこの問題は深刻であり、今回の自分ごと化会議においてこの問題を取り上げ、私たち市民自ら改善の提案をするに至ったことは、大きな意味を持つと思います。

2010年に発足した地域コミュニティ協議会の今後に大きな期待をすると同時に、どの班（テーマ）においても、これまでの自治会と地域コミュニティ協議会の関係の明確化や学校や民間企業も含めたその他の地域活動団体等との相互連携、地域活動の情報発信不足等が課題であると考え、その解決策として、「まちづくりの担い手ごとの“できること”」を自分ごと化会議メンバーから提案します。

2 課題別「まちづくりの担い手ごとに“できること”」

自分ごと化会議では、前項の各班の課題ごとに個別課題を挙げ、それぞれ担い手ごとに解決策（“できること”）を議論しましたが、詳細は第Ⅳ章に記載したとおりです。ここでは、個別課題の掲載はせず、個別課題を通して前項に挙げた課題ごとに「担い手ごとに“できること”」を分類、集約すると概ね次の表のとおりです。

| 第1班 テーマ：環境保全 | |
|-----------------------------|---|
| 課題1：共助システムの弱体化と負担増、地域活動の多様化 | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会（活動）に参加する ・市と相談しながら自治会のメリットを整理する ・自分ができることを考える ・相互扶助関係をつくる ・多様な地域活動の仕組みをつくる ・地域活動の情報を発信する ・地域コミュニティを尊重する ・まちづくりに関心を持つ |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携して学生の参加を促す ・自治会活動を再点検する ・中学生や高校生に魅力的なイベントを開催する ・自治会加入促進活動をする ・自治会加入メリットを説明する ・自治会に再加入しやすい仕組みをつくる ・シルバー人材センターの活用など、自治会の負担を軽減する ・防災訓練は地域コミュニティ協議会の役割として自治会の負担を減らす ・相互扶助関係をつくる |

| | |
|----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の情報を発信する ・パートナーシップ会議を開催する ・魅力的な地域活動を展開する |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・不動産業界が店子の自治会加入を促す |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動にインセンティブを与える ・自治会加入促進活動をする ・地域活動の情報を発信する ・市が市民が自治会活動に参加するきっかけを作る ・不動産業界が行う店子の自治会加入促進に協力する |

課題2：ごみステーションのマナー低下

| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
|-----|---|
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全意識を高める ・ごみステーションを自分ごと化する ・自分でできる環境保全行動をする ・要支援者が自治会の支援を受ける ・要配慮者のゴミ出しを手伝う ・ルールの説明と注意喚起する ・ルールを知る ・ルールを守る |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会からルールの情報提供する ・ステーション管理者を明確にする ・ステーションを増設する ・地域清掃活動への参加勧誘をする ・地域で監視する ・地域において相互協力する ・要配慮者のゴミ出しを手伝う ・利用者のルール遵守意識を高める ・ルール遵守を呼びかける |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業でできる環境保全行動をする ・環境保全活動にインセンティブを与える |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政が監視する ・収集方法の改善を検討する ・ステーション管理者を明確にする ・ステーションに関する情報を発信する ・ステーションの改造を支援する ・ステーションの配置の適正化を考える ・地域における紛争の調停をする ・マナー向上の普及啓発をする |

| 課題3：環境保全意識の低下 | |
|----------------------------|---|
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・異常時は行政に連絡する ・自分で掃除する ・地下水を大切にする ・マナーを注意する ・身近な場所の美化意識を持ち続ける |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・危険・注意情報を公開する ・行政と一緒に地域清掃する ・自治会や民児協の協力で水道に対する意識調査を行う ・地域清掃の支援をする ・ボランティアで河川清掃する ・要配慮者の安全安心を支援する |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・協働で地下水の活用を考える ・市民と一緒に地域清掃する ・地域が監視する ・ルールを守る |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・担い手たちの連携を強化する ・環境学習を行う ・環境美化運動を宣伝する ・環境保全活動に補助する |
| 課題4：環境課題の認知度の低下、活動参加者の意識格差 | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動を自分ごと化する ・環境問題に高い意識を持つ ・環境問題を知る ・筍畑を拓げる ・地域情報を収集する ・自ら訪れる ・自ら手入れする |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場を増やす ・コロナ禍でもオンラインなどの活用で積極的に協議する ・シルバー人材センターを活用する ・森林整備に参加協力する ・地域課題に西山を取り上げる ・西山テーマパークづくりを計画する ・担い手が連携し放置竹林対策をする |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催し情報発信する |

| | |
|--------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・竹を利用した商品開発を行う ・テーマパーク構想を構想日本が作る ・担い手ができることを明確にする ・担い手が連携し対策をとる |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業用地地権者の同意をとる ・実施計画策定を構想日本に依頼する ・整備する個人に補助金を交付する ・地域と協力して意向調査を行う ・地権者の依頼を聴いてまとめる ・西山テーマパーク構想を作る ・西山テーマパーク構想を作る民間企業を選定する ・西山テーマパーク事業の広報をする ・福祉事業所との連携で商品開発をする ・放置竹林の状況把握をする |
| 課題5：知る機会の少なさ、情報不足 | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSで自ら情報発信する ・広報誌を読む ・自分でできる環境保全活動を探す ・西山にキャンプに行く ・ボランティアに参加して情報収集する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・西山テーマパークづくりを計画する ・担い手が連携し放置竹林対策をする ・テーマ型団体に講師を依頼する ・テーマ型団体と連携する ・地域の役割を明確にする ・情報提供に協力する ・地域コミュニティ協議会の会報を活用する |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業も情報発信の工夫をする ・企業も西山のブランド化に務める ・経営と環境貢献を両立する ・大学のボランティアを活用する |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSで情報発信する ・SNS等、新しい情報伝達ツールを考える ・自分ごと化会議を開催する ・個人ができることを行政が明確化する ・市民同士の啓発活性化の仕組みを作る ・大学のボランティアを活用する |

| | | |
|-----------------------|------------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活用に道筋をつける ・森に親しむ機会を作る |
| 第2班 テーマ：防災・防犯 | | |
| 課題1：共助システムの弱体化 | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分ごと化会議を開催し、参加する ・世代間交流を図る ・地域を自分ごととして見直す ・自ら自治会活動の提案をする ・向こう三軒両隣文化を大切にす ・自治会の活動を知り、加入する ・自治会の大切さを伝える ・自分は、自治会を脱会しない |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも対策をした上で地域活動を行うことを検討する ・自治会活動を強化する ・自治会加入トライアルを受ける ・自治会の大切さを説明する ・自治会の見直しをする ・積極的に行事を行う ・住民の意見を行政に伝える ・地域イベントの見直しをする ・地域コミュニティ協議会の目的と活動の目標を明確にする ・地域コミュニティ協議会の見直しをする ・地域住民をサポートする ・地域の声を聴くアンケートをする |
| | 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携で社会問題を考え、解決提案をする ・民間が提供する学ぶ場を広報する |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌以外の広報ツールを考える ・市民の声を聴く専門組織を作る ・社会問題解決の人材を育成する ・地域団体への支援を行う ・転入者に自治会加入を促す ・広く地域に情報発信する ・市民団体を活用する |
| 課題2：防災意識の低下 | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族で自助に備える ・楽しく自助に備える |

| | | |
|-----------------------------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分ごと化会議に参加する ・消火器について学ぶ ・防災訓練などにみんなで参加する ・ルーティン化した日常を送らない |
| | 地 域 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業、学校の防災訓練に参加する ・行政、市民団体と連携し地区総合計画を作る ・災害時の各自の役割を指示する ・サロンを運営する ・自助の準備を促す ・集合場所を指定する ・楽しいイベントと防災訓練を一緒にやる ・地域で危険箇所を確認し、ハザードマップを作る ・早めの避難を心掛ける ・避難訓練を行う ・防災訓練のやり方を再考する ・防災情報の提供方法を再考する ・要支援者の状況を把握する |
| | 民 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護施設を避難所にする協力をする ・消火器について学ぶ ・防災訓練に参加する ・防災市民団体や防災士会が市と協議、協働する |
| | 行 政 | <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校、公民館での防災訓練を主導する ・企業や学校の協力を得る ・キャンプと防災訓練を合わせて行う ・自治会のサロン運営を支援し、避難所とする ・消火器を使用した訓練を行う ・情報提供の機会を増やす ・地域や市民団体と継続的に協議し、防災体制を整える ・避難訓練で防災グッズの点検を行う ・避難所における防災用品の講習会を行う ・避難所運営計画をつくる |
| 課題3：要配慮者に対する支援体制の脆弱さ | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個 人 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所に目を配る |
| | 地 域 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いを大切にする ・民生委員と協力する ・向こう三軒両隣文化を大切にする ・要配慮者マップを作る |

| | |
|----------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の声を聴く場を作る ・要配慮者支援計画を支援者、被支援者両者で作る |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業者を救護団体にする |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者情報を自主防災会に提供する ・要配慮者の意味を知らせる ・要配慮者の情報把握と迅速な救助活動を行う ・要配慮者を防災訓練に参加してもらう |
| 課題4：防犯意識の低下 | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・「1戸1灯運動」を進める。 ・学校など若者が情報提供する仕組みをつくる ・学校の防犯メールに登録する ・自宅の外灯の消灯を延ばす ・新聞から情報収集する ・自ら灯りを携帯する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・「1戸1灯運動」を進める。 ・暗いところを見つける ・サロンを運営し見守る ・地域の特性に応じた防犯活動を考える ・不審者情報を知る ・防犯活動を知らせる |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・警備会社による地域見回りシステムを導入する ・会社周辺に灯りをつける |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・河川の除草や枝払いをする ・学校の防犯メールへの登録を促す ・地域のサロン運営を支援する ・防犯カメラを設置する ・防犯に関する市民アンケートを行う ・若者向けの防犯メールを提供する |
| 課題5：地域住民間の情報交換機会の低下 | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集にデジタルを使う ・スマホ使用法を習得する ・防災・防犯メールに登録する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi スポットを増設、整備する ・スマホの講習会を開く ・防災・防犯アプリを作り、情報提供する |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの講習会を開く |

| | | |
|--------------------------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ普及キャンペーンを行う ・スマホ用アンテナを増設する |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・スマホのレンタルをする ・スマホ利用者に税の優遇措置をする ・スマホ利用に補助金を出す ・防災・防犯メールの登録案内をする |
| 第3班 テーマ：高齢者 | | |
| 課題1：高齢化に伴う自治会の弱体化（担い手不足） | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場を作って参加する ・近所に目を配る ・広報誌を読む ・自治会活動に積極的に参加する ・自治会活動の宣伝をする ・自治会や地域コミュニティ協議会の活動を学ぶ ・自分ごと化会議に参加する ・自分も地域の一員である自覚を持つ ・地域イベントに参加する ・地域情報をネット等で入手する |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者を増やす ・サロンを運営する ・自治会加入を促す ・自治会館の利用を拡げる ・自治会の形を見直す ・自治会の活動を見直す ・自治会のない地区に自治会を新設する ・自治会の目的、メリットを明確にする ・自治会役員の負担を減らす ・地域イベントのマンネリ化を改善するため民間活力を導入する ・地域活動団体を繋ぐコーディネーターを作る ・地域活動のスポンサーを探す ・地域コミュニティ協議会が自治会横断的業務を担う ・地域の居場所に空き家の活用を考える ・自治会の仕事をアウトソーシングする |
| | 民間 | ・特になし |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しいコミュニティ組織を作る ・学校の授業に地域活動に関わる機会を作る ・地域活動団体のイベントに協賛する |

| | | |
|---------------------------------|------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体の連携を考える ・地域活動を SNS などで発信する ・地域活動を広く周知する |
| 課題 2 : 世代間の交流、新旧住民の交流の不足 | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”(“できること”の要約) |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌などで情報を収集する ・それぞれにコミュニケーション能力を磨く ・地域活動に声を上げる ・地域活動に参加する ・地域活動の意義を子に話す ・地域の若者に寄り添う |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催し情報発信する ・企画立案できる人を探す ・新住民に加入を促す ・土日に世代を超えたラジオ体操に参加してもらう ・魅力的な世代間交流の機会を作る ・高齢者の知恵や経験を若者に直接伝える機会を作る ・学校との協力やつながりを強化する |
| | 民間 | ・特になし |
| | 行政 | ・行政が世代間交流に補助する |
| 課題 3 : 老後を楽しむための環境の不足 | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”(“できること”の要約) |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所に目を配る ・積極的に外に出る ・日ごろのつながりを考える ・プロのメイク教室に参加する ・ラジオ体操、ウォーキングを毎日する ・老後にしたいことを考える |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にボランティア参加を促す ・高齢者向けイベントを企画する ・サロンを運営する ・自治会が高齢者の趣味と地域活動団体をつなぐ ・趣味のサークルをつくる ・高齢者の趣味や特技を披露する会をつくる ・生涯学習塾を開講する ・地域活動に高齢者の参加を促す ・プロメイク体験の機会を提供する |
| | 民間 | ・コロナ禍でも趣味のサークル活動を検討する |

| | | |
|----------------------|-----|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの加入を促す ・プロメイク体験の機会を提供する |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・LINEの使い方講習会を開催する ・ウォーキングコースにトイレをつくる ・介護認定の実態を知らせ、健康寿命延伸を市民に促す ・高齢者受け元気生活ポスターをつくる ・高齢者のイベント参加にインセンティブを与える ・サロン新設に支援する ・サロン新設の場所を提供する ・市民活動団体を把握し、周知する ・独居高齢者の出会いイベントを企画する ・ビジュアルな情報提供サイトをつくる |
| 課題4：地域での見守り、支え合いの脆弱さ | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・アナログの情報伝達も考える ・キーパーソンを知る ・近所に目を配る ・近所の独居高齢者を知り、安否確認を行う ・声かけ運動を行う ・コロナ禍でも可能な限り対面で支援する ・サロンに集まる ・自分や家族の老後を考える ・独居高齢者情報を把握する ・要配慮者の異常時に行政に連絡する ・家族・親戚の状況を理解する |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護者、被介護者の情報を知る ・サロンを運営し、独居高齢者の参加を促す ・自治会が独居高齢者を見守る ・相互扶助関係をつくる ・地域で見回り、声かけをする ・地域の困っている人と助けられる人の名簿を作り、つなげる ・独居高齢者情報を把握し、人間関係図を作る ・民生委員と自治会が連携し独居高齢者を見守る ・独居高齢者に行事参加を促す ・独居高齢者の趣味や特技を把握し、接点を増やす |
| | 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者精神疾患に対応する民間病院との連携を図る ・地域とのつながりのない人をNPO活動で自治会とつなげる ・福祉施設と連携する |

| | |
|----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・見守りを兼ねた配食（ついでの見守り）などを行う |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護者、被介護者を定期的に訪問し支援する ・自治会、行政と協力し、高齢者安否確認の側面サポートをする ・独居高齢者情報を自治会に提供する ・独居高齢者に必要な福祉施設を紹介する ・独居高齢者の安否確認をする ・被介護者を介護サービスにつなげる ・不要な行政サービスはしない ・見回りロボットを導入し、モニタリングする |

課題5：外出困難者のサポート不足

| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
|-----|--|
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい収集」を知らせる ・買い物支援を考える ・近隣住民と地域が連携してゴミ出しを助ける ・住民同士の乗合タクシーシステムをつくる ・通販などを活用する ・トレーニングを続ける ・公共交通を利用する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の乗合タクシーシステムをつくる ・地域の困っている人と助けられる人の名簿を作り、つなげる |
| 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターにゴミ出しを委託する ・スーパーの買い物バスを活用する ・民活型デマンド乗り合いタクシーシステムを考える |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者情報を把握し、自治会に提供する ・はっぴいバスを増便する ・不要な行政サービスはしない ・ふれあい収集を周知する |

第4班 テーマ：子ども・子育て

課題1：共助システムの弱体化（担い手不足）

| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
|-----|---|
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・声を上げる機会を利用する ・自分ごと化会議に出席する ・地域活動に参加する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、子ども会を見直す ・自治会加入メリットを説明する ・自治会の仕事の一部を地域活動団体に委ねる ・自治会の見直しをする ・地域活動に高齢者の参加を促す |

| | | |
|-----------------------------------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を知るきっかけをつくる ・自治会の仕事をアウトソーシングする |
| | 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体で高齢者を活用する |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を高齢者の居場所とする ・自治会の目的、メリットを明確にする ・地域活動団体のコーディネートをする ・地域活動団体を把握する |
| 課題2：地域活動情報や行政情報が伝わらない | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌を読む ・市政に関心を持つ ・市のLINEに登録する ・市のSNSに登録する ・市のホームページを見る ・他地区の人に声をかける ・人から人へ情報を伝える |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNS上に交流の場をつくり、地域活動につなげる ・回覧とSNSを使い分ける ・掲示板を利用する ・市のSNSに登録してもらい仕組みをつくる ・重要な情報のみ回覧する ・地域活動をSNSなどで発信する ・地域情報の発信をNPOに委託する |
| | 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動サポートセンターの情報ファイルを改良する ・市民活動団体の活動をもっと宣伝する |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・LINEの担当を行政分野別に分散する ・広報誌を全戸配布する ・市のSNS登録にインセンティブをつける ・市民活動団体の情報を収集する ・世代により広報の方法を変える ・双方向の情報デンタルツールをつくる ・地域担当窓口をつくる ・ホームページ、SNSを充実させる ・ほしい情報が探せるツールをつくる |
| 課題3：地域活動組織の役割が不明瞭、団体間の連携不足 | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・人から人へ情報を伝える |
| | 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会の活動を知らせる |

| | |
|-------------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会と地域コミュニティ協議会がもっと交流する ・小学校区ごとに必ず地域コミュニティ協議会をつくる ・地域間が交流するイベントを行う ・地域コミュニティ協議会の権限と役割を明確にする ・地域コミュニティ協議会の権限を強化する ・地域コミュニティ協議会を条例化する ・地域コミュニティ協議会が積極的な情報発信を行う ・地域コミュニティ協議会と行政の連携を強くする |
| 民間 | ・民間と地域コミュニティ協議会の連携を強くする |
| 行政 | ・市役所の中に各地域との連携の担当を置く |
| 課題４：子ども同士や親同士が交流する場がない | |
| 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTAを見直し活用する ・声かけ運動を続ける ・子育て支援の社会資源を調べ、活用する ・子と親の支援者を探す ・子どもの意見を聴く ・子ども目線を持つ ・困ったときに頼れる場をつくる ・自治会を活用して声を上げる ・自分の時間を大切にする ・市民活動団体や地域の連携で行政につなげる仕組みをつくる ・相談相手をつくる ・それぞれの役割を明確にする ・第三者による相談窓口をつくる ・とりあえずの相談場所をつくり、次につなげる ・望まない妊娠をした親と子の支援者を探す ・保護者と関係者の対話の場をつくる ・ママ友から情報収集する ・ママ友の居場所を探して発信する ・身近な人生の先輩から経験を伝えてもらう |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・イベント企画に子どもが参加する ・親子で楽しむイベントを企画する ・高齢者を社会資源として活用する ・子育て中の親子の実情を発信できる場をつくる ・子育て等に悩む女性を地域で守る ・子ども会と高齢者をつなげる ・子ども会の運営を子どもに任せる |

| | | |
|-----------------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の活動に高齢者が協力する仕組みをつくる ・自治会館を子どもと子育て中の親に開放する ・自治会役員が子育て相談を受ける ・地域から相談窓口につなぐ ・地域支援活動イベントに自治会、子ども会が参加する ・地域で子育てに協力する ・地域の若者が子ども、高齢者向けのネットの講座を開催する ・望まない妊娠をした女性を地域から相談窓口につなぐ |
| | 民間 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て経験者を有償で活用する ・市民活動団体に市職員 OB を派遣する ・市民活動団体への支援を拡充する ・市民活動団体を活用する ・社協の「ハロウィン」に子ども会が参加する ・世代間交流の活動団体を調べる |
| | 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNS の活用で学校と連携する ・SNS を活用した相談窓口をつくる ・医療の専門家を含む子育ての悩み事に対応するネットワークをつくる ・親子、世代間交流の場として公民館を活用する ・親子それぞれのメンタルケア支援機能をつくる ・学校と保護者の対話の機会を増やす ・学校内に相談窓口を設置する ・教育委員会と保護者だけでなく医療の専門家等との対話の機会を増やす ・子育て支援の紹介、案内窓口を設置する ・子育て相談窓口を広く知らせる ・子どもとの接し方講習会を開く ・子どもの発達に応じた教育を行う ・小中の連携を強化する ・望まない妊娠をした女性に医療費の補助や子育て支援をする ・望まない妊娠をした女性に支援制度を紹介する ・幼稚園から学校まで切れ目なく連携する |
| 課題5：子どもの居場所が少ない | | |
| | 担い手 | 担い手ごとに“できること”（“できること”の要約） |
| | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館や自治会館を有効活用する ・子ども同士の場所を提供する ・遊び場情報を SNS で提供する ・オンライン通信を活用して遊ぶ ・最寄りの公園を活用する ・コロナ禍でも対策を講じて施設開放するよう市に要望する |

| | | |
|--|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のひとり親支援を市に要望する ・学習支援、スマホ・パソコン講習会、スマホ・パソコンの貸与を地域が行う仕組みをつくる |
| | 地 域 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援、スマホ・パソコン講習会、スマホ・パソコンの貸与を地域が行う ・公民館や自治会館を有効活用する ・子ども会が放課後の居場所をつくる ・子どもの安全を地域で見守る ・地域が屋外施設を提供する ・地域で子ども食堂を運営するなど子どもを見守る |
| | 民 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援、スマホ・パソコン講習会、スマホ・パソコンの貸与を地域が行う ・子育て支援団体と子どもたちをつなげる仕組みをつくる ・市民活動団体と市や自治会が連携する仕組みをつくる ・フードバンク長岡京にひとり親支援を依頼する |
| | 行 政 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援、スマホ・パソコン講習会、スマホ・パソコンの貸与を地域が行う仕組みをつくる ・公民館など市の施設に Wi-Fi を整備する ・図書館の学習スペースを拡げる ・公民館や自治会館を有効活用する ・子どもとの接し方講習会を開く ・児童館、学校を有効活用する ・塾通いのことそうでない子の違いをつくらない授業を行う ・すくすく教室の回数を増やす ・病児保育サービス等の情報をホームページや SNS で提供する ・小学校の空き教室を開放する |

3 テーマや課題を横断した「まちづくりの担い手ごとに“できること”」

(1) テーマや課題を横断した「まちづくりの担い手ごとに“できること”」

前号の「テーマ別、課題別“できること”」について、テーマや課題を横断して、まちづくりの担い手ごとに分類、集約した結果が次の表です。まちづくりの担い手ごとに、“できること”の基本が見えてきます。

| まちの課題の解決策として担い手ごとに“できること” | |
|---------------------------|---|
| 個 人 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることをする ・自分ごと化会議などに参加する ・地域のことを自分ごと化する ・お互いに助け合う ・SNS でまちの情報を発信する ・スマホや SNS を活用する |

| | |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・まちの情報を知る ・若者や子どもたちと触れ合う ・行政と連携する |
| 地 域 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりができることを勧める ・スマホや SNS を活用する ・子どもにイベント企画を任せる ・中学生や高校生に魅力的なイベントを開催する ・お互いに助け合う ・地域の情報を発信する ・スマホや SNS を活用する ・地域の情報を知る ・若者や子どもたちと触れ合う ・行政、学校、企業、市民団体と連携する ・地域住民の声を聴く ・地区総合計画をつくる ・地域の防犯に力を入れる ・高齢者を見守る ・高齢者の社会参加を促す ・子育て世代を地域で守る ・子どもたちと高齢者をつなげる ・子どもたちを見守る ・自治会を盛り上げる ・災害時に主導権を発揮する ・自治会、子ども会、地域コミュニティ協議会のあり方を見直す ・地域コミュニティ協議会を盛り上げる ・地域のルールをつくる ・ルールを守ってもらう ・環境を整備する ・サロンを運営する ・積極的に行事を行う ・住民の意見を行政に伝える ・要配慮者支援計画を支援者、被支援者両者で作る ・地域コミュニティ協議会が自治会横断的業務を担う ・自治会の仕事の一部を地域活動団体に委ねる |
| 民 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催し地域貢献する ・介護事業所が災害時に地域貢献する ・企業資源を社会資源として活用する ・民間が提供する学ぶ場を広報する |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ、SNS の普及活動を行う ・社会貢献活動に協賛する ・企業が地域情報を発信する ・行政、地域、地域団体と連携する ・子育て世代を雇用で支える ・高齢者の社会参加に貢献する ・市民活動団体の支援をする ・社会資源を開発する ・地域の見守りをする ・行政計画策定に協力する ・地域活動に協力する ・社会のルールを守る |
| <p style="text-align: center;">行 政</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・LINE、SNS、メールの活用を広げる ・既存の情報伝達手段を充実させる ・ICT インフラ整備を進める ・新たなコミュニティ組織をつくる ・子育て相談体制等を拡充する ・高齢者向け施設整備を進める ・公民館等を有効活用する ・介護者、被介護者を支援する ・介護制度を広く周知する ・防災訓練を主導する ・公衆衛生、環境美化を主導し地域と協力する ・学校と地域をつなぐ ・ルールを守ってもらう ・世代間交流にインセンティブを与える ・必要な環境保全事業を行う ・高齢者の社会参加を促す ・地域と連携して高齢者を見守る ・市民の役割を決める ・サロンを支援する ・子どもの発達に応じた教育を行う ・地域団体の活動を支援する ・計画行政を行う ・市民活動団体を支援する ・職員の能力向上に努める ・市民のまちづくり参加の仕組みをつくる ・ごみ収集方法を見直す |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の在り方を考える ・ごみステーションの管理体制を見直す ・市民意向調査を行う ・担い手たちの連携を強化する ・不要な行政サービスはしない ・防犯カメラを設置する ・ボランティアの活用を拡大する ・幼保学校の連携を強化する ・子どもの居場所として学校を開放する ・図書館の学習スペースを拡げる ・市民が自治会活動に参加するきっかけを市が作る ・環境保全活動に補助する ・自分ごと化会議を開催する |
|--|---|

ア 個人でできること

個人でできることについては、最も多いのが「自分でできることをまず自らやる」という意見です。主権者でありまちづくりの主人公ともいべき市民（個人）が「**できることは自らやる**」ことは当然かもしれませんが、その意識が高いことは、長岡京市市民の素晴らしいところだと自負します。まちの課題と解決策を考える「自分ごと化会議」の意義を評価する意見もあり、**多様な市民が集まる議論の場を続けたい意向が示されました**。また、共助の重要性の認識から、**地域活動を大切にすべきだ**との意見が多いのが特徴です。

イ 地域でできること

地域でできることについては、子どもたちや高齢者の**見守り**、世代間交流機会の提供、**行政と地域住民のパイプ役**など多くの意見があり、自治会館を子どもたちや高齢者の居場所として活用することなどの具体的な提案もあって、市民一人ひとりが**地域の重要性**を認識しています。

また、自治会、子ども会、地域コミュニティ協議会を盛り上げる必要があるという意見が多い一方で、高齢化によって運営に課題が見えてきたこれらの**あり方を見直すべきだ**という意見も多いことが特徴です。

高齢化社会の中で、高齢者の社会参加を促す場所として「**サロン**」の運営を地域に期待する声が多いのも特筆すべきだと考えます。

ウ 民間でできること

自分ごと化会議の議論を通して、NPOなどの**市民団体**の活動内容などがあまり知られていない実態が浮き彫りになりましたが、今後は、その実態を広く知ってもらうとともに、これら**市民団体に行政の支援**が必要だという意見が多く見られました。

また企業の社会貢献の一環として、特に**防災や防犯**において、**企業の持つ資源の提供**を望む意見が多く、今後、民間企業の社会貢献に期待します。

エ 行政でできること

行政でできること、換言すれば「市民が行政に期待すること」は、実に多岐に渡ります。その多くは、行政だけに頼るのではなく、**主権者としての市民ができることは市民が、地域住民や団体ができる地域のことは地域住民や団体がやる**という認識に基づいています。市民から行政に向けたメッセージとして「**不要な行政サービスはしない**」という意見はその典型です。その上で、**地域に対する支援に期待する意見が多く、自分ごと化会議メンバーは、地域の重要性を認識しています。**

また、**行政情報の伝達**について「伝えようとはしているが、**伝わらない。**」という意見が多く、ICTの進歩により多くのツールがある今、従来の方法の見直しと合わせて、新しい情報伝達ツールの開発など**新たな工夫が必要だ**と思います。

行政運営の基本を「市民参加」とする意見も多く、**市民の声を聴くことの重要性の認識に立ち、そのための施策が必要だ**と思います。

4 自治会など地域コミュニティ（共助システム）の弱体化への対応

地域コミュニティの弱体化についての課題認識が、どの班においても挙げられていることは第Ⅱ章及び本章第1項で前述しました。

この課題解決のために“できること”を集約すると、概ね次のとおりです。

- ・自治会や地域コミュニティ協議会の重要性について広く知らせる
- ・新住民等の加入促進に力を入れる
- ・市民と行政のパイプ役を果たす
- ・高齢者を地域で見守る
- ・子育て支援を地域で行う
- ・役員の負担軽減のためにアウトソーシングを進める。
- ・自治会、子ども会、地域コミュニティ協議会のあり方を見直す
- ・地域団体、市民団体等との連携を強化する

いずれもまちづくりにおける**地域の重要性の認識**に基づく提案ですが、「**担い手不足**」は深刻であり、**早急な対策を講じるべきだ**と考えます。

第Ⅳ章 自分ごと化会議の開催概要と班別議論等

以下は、各班の会議の開催概要のほか、各会議で交わされた議論と意見の概要、各回で提出した「改善提案シート」の提案を中心にまとめたものです。

各班では、テーマごとにどんな「まちの課題」があるのか意見が出され、その意見を各班ともに5つの課題に集約し、各課題別の「それぞれの課題（個別課題）」ごとの解決策について議論し、提案をしました。

本章では、各班の会議の開催概要と、5つの課題別、個別課題別にその解決策に関する議論と意見、提案の概要を掲載しました。

第1班 環境保全

1 会議開催概要

(1) 第1回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2020年12月12日（土）13:30～16:00
- イ 会 場：長岡京市中央生涯学習センター3階特別展示室
- ウ 参加者：17名
- エ 概 要：自己紹介、自己紹介で出していたキーワード（公園・ごみ収集）について
条例の方向性について

(2) 第2回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年4月10日（土）13:30～16:00
- イ 会 場：産業文化会館1階大会議室
- ウ 参加者：15名
- エ 概 要：自治会・協働について
ごみステーションの管理について
- オ 市説明者：自治振興室（自治会・協働について）
環境業務課（ごみステーションの管理について）

(3) 第3回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年6月27日（日）13:30～16:00
- イ 会 場：長岡京市役所大会議室A
- ウ 参加者：15名
- エ 概 要：長岡京市第2期環境基本計画について
地域活動参加への動機・きっかけづくりについて
- オ 市説明者：環境政策室（環境基本計画について）

(4) 第4回自分ごと化会議

ア 開催日時：2021年7月25日（日）14:00～16:30

イ 会 場：産業文化会館1階大会議室

ウ 参加者：12名

エ 概 要：西山森林整備推進協議会の取り組みと市民とのかかわりについて

オ 市説明者：農林振興課（西山森林整備推進協議会の取り組みについて）

(5) 第5回自分ごと化会議

ア 開催日時：2021年10月30日（土）13:30～16:00

イ 会 場：開田自治会館

ウ 参加者：10名

エ 概 要：提案書案の確認

2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

課題

【共助システムの弱体化と負担増・地域活動の多様化】

- 1 自治会加入率の減少に伴い、地域活動への自治会の負担が大きくなっている
また、コミュニティやライフスタイルも変化しており、市民ニーズや地域活動も多様化している

課題

【ごみステーションのマナー低下】

- 2 ごみステーションの管理体制が不明確であり、利用者のマナーも悪い
また、ごみ出し困難な住民へのサポートも不十分である

課題

【環境保全意識の低下】

- 3 河川や水路の環境整備や清掃活動に、市民や地域の関心や関わりが少なく、動機づけの方法を検討する必要がある

課題

【環境課題の認知度の低下・活動参加者の意識格差】

- 4 西山は、手入れ不足により森林や竹林が荒れ、竹林拡大が進行するなど様々な課題を抱えているが、現状を知らない市民が多く、活動に参加する人の意識に格差がある

課題

【知る機会の少なさ・情報不足】

- 5 環境保全のための啓発があっても、情報が溢れすぎていて、素通りしてしまう
これまで通りの情報伝達方法では、環境問題の啓発や課題を知る機会が失われている

【共助システムの弱体化と負担増・地域活動の多様化】

1

自治会加入率の減少に伴い、地域活動への自治会の負担が大きくなっている

また、コミュニティやライフスタイルも変化しており、市民ニーズや地域活動も多様化している

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|---|---|
| 個人 | ① 課題を解決するには、企業や行政がやらないと難しいという印象で、個人が関わるといことが具体的にイメージできない。 | A) 自分だけでなく、自分の子どもや親が住みよく暮らしていくためにはどうしたらよいか、課題を解決するための動機を持つ。 B) 市民が動かないのに市や企業にやってくれというのではなく、市民ができることを考えたい。 C) 顔見知りではないと助け合うことはできない。地域での関係性構築は、行政に頼るのではなく、私たちが作っていかねばいけぬ。 |
| | ② こども会の活動は小学校くらいまでだと思ふ。中学に上がって活動からだんだん離れていった。自治会には入っているけど参加していない。 | D) 地域のつながりを大切にする。 E) 自治会がどのような活動をしているのかを知り、活動に参加してみる。 |
| | ③ 核家族化や転勤等があり、マンションも増えている。地域に定着するというよりも、通過点としてとらえており、市外から来た人は、地域への愛着が希薄である。 | |
| | ④ 地域活動や自治会の活動などの情報がわからない。 | F) 色々な世代に合わせて周知方法を工夫する（若者にはSNS等で魅力を発信する。） |
| | ⑤ 市外に仕事に行っているとなかなか自治会の会議に参加しにくい。 | G) 地域の活動をできる人が協力してやっていける仕組み、その時は参加できなかったけど、別の形で協力する相互関係の仕組みを検討する。 |
| | ⑥ 単身者向けのマンション・アパートに住んでいる人は、自治会にどう入会したらいいのかわからない。 | H) 市にも相談しながら、自治会加入のメリットを整理・検討してみる。 |

| | | |
|-----------|---|---|
| 地域 | ① 地域での活動の担い手が不足しており、役員などの担い手となる人たちの負担感が増している。 | <p>A) 自治会に入っていない人のために、体験入部のような取組みを行う。</p> <p>B) 自治会に加入するメリットと加入しないメリットを比較検討し、加入するメリットを説明できるようにする。</p> <p>C) 1度自治会を抜けても、再加入しやすいシステムにする。</p> <p>D) 参加するための動機づけが必要。</p> <p>E) 役員だけに負担が偏らないように地域住民での助け合いが可能なコミュニティを構築する。</p> <p>F) 学校と連携して学生にも地域活動に参加してもらう。</p> <p>G) 協力したいと思っている方は潜在的にかなりいる。取組みの発信が大事。(地区内の公園の草刈りを役員だけでやっていたが、参加協力の回覧により、かなりの方が手伝いに来てくれた。)</p> |
| | ② 活動の内容の中に必要性を感じられないものや、非効率的な内容があり、前例踏襲で実施している。 | H) シルバー人材センターなど民間に任せることと、自治会でやることを整理し、自治会の負担を減らす。 |
| | ③ 多様化している住民のニーズに対応できていない。共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないか。 | I) 今回のように若い人や企業の方が入るパートナーシップ会議を開催する。 |
| | ④ 子どもや高齢者だけでなく、各世代が魅力を感じられる活動がない。 | <p>J) 子どもまたは老人だけでなく、各世代が魅力を感じられる活動をする。</p> <p>K) 思い出に残るような自治会活動・イベントを開催する。</p> <p>L) 自治会の中で、クラブ活動など有志で何か始める。</p> |
| | ⑤ 災害があった時などに、初期対応は行政にはできない。避難を誘導するのは地域の人しかいない。 | M) 地域の力がなければ救えない。行政ではなく、なるべく共同体の中で問題を解決し、助け合うことが重要。 |
| | ⑥ 自治会行事の参加者は増えず、防災訓練などは形骸化している。 | <p>N) 防災訓練や市民運動会の実施時期・方法などを見直す。</p> <p>O) 祭りや体育大会等の行事に中学生、高校生が参加しやすい工夫をする。</p> |

| | | |
|---------------------|--|---|
| | | P) 防災訓練は自治会が実施しているところや地域コミュニティ協議会を実施しているところがある。これをすべて地域コミュニティ協議会の役割とし、自治会の負担にならないようにする。 |
| | ⑦ 集合住宅が多く建ってきており、どんな人が住んでいるのか把握できておらず、地域の繋がりがますます薄れてきている状況である。 | Q) 新しく地域に来た人、若者世代へ自治会に入るメリット・必要性を理解してもらう（メリットを作る）。 |
| その他 (民間) | ① アパートやマンションの販売会社、管理会社は、居住者の自治会のことまでは考えていない。 | A) アパートやマンションの販売会社、管理会社の協力を得て、居住者の自治会加入を促進する。 |
| 行政 | ① なんでも自治会任せになりがち。 | A) 行政から自治会への依頼事項を見直すことと併せて、自治会等の市民活動団体への補助金を見直す。 |
| | ② 転入者に対する自治会等の説明は、転入手続きの際に市民課窓口で渡されるチラシのみで不十分。 | B) 転入者への自治会案内をする際、転入手続き時にチラシを渡すだけでなく、自治会担当部署が積極的にメリットを説明し、自治会とのつなぎ役となる。 |
| | ③ 自治会に入るとどんなメリットがあり、どのような負担があるか、きちんと伝えられていない。 | C) 各自治体の魅力や活動を、特集する。 D) 自治会の仕組みや活動を発信する。 |
| | ④ 地域の活動を行える人達が協力し合える仕組みが必要。 | E) 動機付けやきっかけづくりを市がやると地域全体で動きやすい。 |
| | ⑤ 自治会等の情報は、基本的にチラシやHP、広報誌等で個人に対して行われており、マンションの管理会社など民間企業を巻き込んだものになっていない。 | F) これからも新築マンションが増えていくと思うので、自治会と管理会社・管理組合が協力して加入を呼びかける。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 行政から自治会への依頼事項や補助金を見直す（依頼事項の中で、シルバー人材センターなど民間に任せられること、自治会でやることなどを整理）。
- (イ) 学校に在籍している人に参加してもらいやり方も良いと思う。卒業したらそれっきりになってしまうので、市民と行政が自発的に関わるという趣旨からは外れるが、そのほうが効率的ではないかと思う。
- (ウ) 個人、地域団体、行政それぞれの関わる部分や、簡単にできる部分や専門性がある部分など棲み分けが必要。すぐ解決できないものもあるので、長期的なビジョンを持って協議をしていく必

要がある。

(エ) 今回(自分ごと化会議)のように若い人や企業の方が入るパートナーシップ会議のようなものがあればよい。

(オ) 昔は共同体そのものが生産の場であったので、共同体のルールを守らなければ生きていけなかった。今は生産の場ではなく生活の場。共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないか。

《その他の課題》

- (1) 地域活動に協力したいと思っている人は潜在的にはかなりいると思う。活動の発信が大事。地区内の公園の草刈りを役員だけでやっていた時、2年ほど前から参加協力を呼びかける回覧を回してみると、かなりの方が手伝いに来てくれた。

【ごみステーションのマナー低下】

- 2 ごみステーションの管理体制が不明確であり、利用者のマナーも悪い
また、ごみ出し困難な住民へのサポートも不十分である

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 収集日や時間帯、ごみの分別が守られずにごみが出される。(分別にないものは全て燃えるゴミにしている)。 | A) 環境への理解を高める。 B) なぜ分別しないといけないのか学び、分別のルールを知る。 C) ルールを守ってゴミを出す。 D) ルールを守らずにごみを出している人には説明と注意をする。 E) ごみステーションは、我が家のごみ置き場であるとの意識を持ち続ける。 F) 常に5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の精神でステーション管理に努める。 G) 牛乳パックや卵パックなどリサイクルできるものは分別項目に入れる。 |
| | ② 高齢者や認知症患者、障がい者など、通常のごみ出しが困難な方やごみの分別がわからない方がいる(重いゴミ袋を運べない、ごみステーションが遠いなど)。 | H) 近所の高齢者世帯と日常から関係を構築し、ごみ出しを手伝う。 I) 地縁団体の活動の中で、テーマ型団体にサポートしてもらう。 J) エコバックを活用し、ごみの減量化に努める。 |
| | ③ 環境美化(地域清掃やごみ問題)活動に、参加する余裕がない。 | K) 買い物にはエコバックを持参する。 L) マイ箸を持ち歩く。 |
| 地域 | ① 地域の中で環境の事を考える機会が少ない。 | A) 自治会、子ども会や、長岡市内の小・中・高・大学、企業に呼びかけて、ゴミの片付けや美化・清掃活動を行う。 |
| | ② 収集日や時間帯、ごみの分別が守られず(分別にないものは全て燃えるゴミにしている)にごみが出される。分別収集の看板やごみ減量のしおりだけではルールが徹底されない(分別指導員をしているが、立っているときはごみを出さず、いなくなると一斉に出される)。 | B) 地域で協力して、マナーやモラルを訴える。 C) 自治会等からの情報提供(回覧板等)や解決支援。 D) ルール違反が無いように監視の目をつくる。 E) 引き続きごみ当番を回していく中で、分 |

| | | |
|---------------------|--|---|
| | | 別の意識をつける。 |
| | ③ ごみステーションのことで、自治会長に相談や苦情が寄せられるが、管理について自治会長にどこまで権限があるか分からない。 | F) 個人または自治会で管理すべきなのかを明確にする。 |
| | ④ ごみステーションの利用世帯が共通の管理意識を持っていない。 | G) 自治会員や非会員の区別なく、所定ごみステーション利用住民への管理ルールを周知徹底する。 H) そうじ当番をつくり、ごみが散乱しているのを見つけ次第掃除する。 I) 管理当番ノートを作成し、利用世帯に回覧し、連絡や困りごと等の情報共有と周知を徹底する。 |
| | ⑤ ステーションの維持管理に参加できる人、できない人がいる。 | J) 参加できない人をフォローする体制をつくる。 K) シルバー人材センターと連携してステーションを管理する。 |
| | ⑥ 高齢者や障がい者など、通常のごみ出しが困難な方（重いゴミ袋を運べない、ごみステーションが遠いなど）やごみの分別がわからない方がいる。 | L) 自治会や役員が中心となって地域として何ができるか考え、協力できるところは協力する。 M) 民生委員と協力し、可能な範囲で代替作業をする。 N) ごみ出しできない人の原因（認知症が始まっているからか？足腰が弱っているからか？）を把握し、所定ごみステーションの利用住民間で助け合う。 O) 家庭ごみの収集場所を増やす。 |
| | ⑦ カラスや犬、猫等の動物により、ごみステーションが荒らされ、ごみが散乱する。 | P) 気付いた時点で片付けとごみネット掛けをする。 |
| その他 (民間) | ① 店舗等で過剰包装、割り箸、プラスチック容器など環境保護道具が浸透していない。 | A) 過剰包装を控え、お弁当の器をプラスチックから紙に変更する。 B) 飲食店で自分の箸を持っていくと割引になる制度を検討する。 |
| 行政 | ① 収集日や時間帯、ごみの分別が守られずにごみが出される。（分別にないものは全て燃えるゴミにしている）。 | A) 地域の苦情解決のための仲介をする。 B) 広報、FMおとくに等で、情報発信する。 C) 成功、失敗、新たな課題等を客観的な情報として提供する。 |

| | | |
|--|---|---|
| | ② ごみステーションの管理方法が地域によってバラバラ。 | D) 地域（自治会）と連携し、ごみステーションの維持管理体制を明確にする。 E) 自治会と連携して、ごみステーションの適正化を検討する（現行の設置基準だけではなく、高齢者の多い地区も検討材料にする）。 |
| | ③ 当該ステーションを利用できない他の地区の人が、車などで捨てに来るといふ悪質なルール違反も存在している。 | F) 定期的なパトロールや防犯カメラを活用し、ルールに違反する人を監視する。 G) 個人や地域では対応できない悪質な場合に、行政から指導をする。 H) ごみステーションの利用やごみの捨て方などを継続的に啓発する。 I) 毎年各世帯に配布される「ごみ減量のしおり」にごみステーションの利用ルールや違反行為に対する勧告や罰則等についても明記し、住民に周知徹底する。 J) ごみ収集ルールの変更を検討する（ごみ収集車が通る自宅の近くの道路沿いにごみを捨てる）。 |
| | ④ カラスや犬、猫等の動物により、ごみステーションが荒らされ、ごみが散乱する。 | K) カラス等の動物による被害対策のため、ドア付きまたは蓋つきのごみステーションに替える費用を補助する。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 自治会長に相談や苦情が寄せられるが、ごみ管理について自治会長にどこまで権限があるかわからない。ごみの問題は自治会長の仕事なのか？苦情処理係になってしまい、いやになると思う。

【環境保全意識の低下】

- 3 河川や水路の環境整備や清掃活動に、市民や地域の関心や関わりが少なく、動機づけの方法を検討する必要がある

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 雑草が生い茂り、ごみをばい捨てしてもわからない。ペットボトル、レジ袋等によって環境が著しく悪化している。 | A) 独りで掃除できることはする。マナーの悪い人(ゴミやたばこ等をポイ捨てる人)には注意する。 B) 身近にある小川(風呂川)や道路・側溝の美化・防災意識を持ち続ける。異常(劣化や破損箇所など)を発見したら、行政へ連絡する。 |
| | ② 毎年小畑川クリーン作戦、530運動には参加しているが、その日だけの活動となってしまう。 | C) 普段から地域の美化を意識し、独りでもできる範囲でゴミを拾う。 |
| | ③ 昔(約50年前)に比べ、美味しい水が毎日飲める環境ではなくなってしまった。 | D) 長岡京の水がおいしいことを子々孫々まで伝承する。地下水を守る意識を持ち続ける。 E) 外食は地下水を使用している飲食店でする。水に関心を持つ。 |
| 地域 | ① 地域ごとの課題に対する住民の意向が不明確。 | A) 地域組織(自治会や民児協など)の協力で、住民の水道水に対する意向調査を行う。 |
| | ② 掃除作業に参加できない人がいる(高齢者・障がい者等)。 | B) 地域や行政で掃除作業の支援をする(隣人愛による助け合い、シルバー人材センターの活用)。 |
| | ③ 小畑川クリーン作戦、530運動は、年間行事の1つとして実施しているだけで、環境美化の意味・必要性を感じない。 | C) 行政と一体化して、年4回程度でも清掃活動を行う。 |
| | ④ 河川や水路の保全は、地域として取り組むきっかけがない。 | D) ボランティアで毎月、河川浄化活動を実施する。 E) 小畑川のほとりを散歩する人も多いため、地域の住民で草刈りなどをして、子どもたちが川遊びなどをしやすくする。 |
| | ⑤ 安全に安心して歩けない人がいる(高齢者や障がい者等)。 | F) 地域や行政で該当者の支援をする(災害時要配慮者支援制度の活用等)。 |

| | | |
|-------------|--------------------------------------|---|
| | | G) 道路・側溝の劣化や破損箇所（危険・注意）情報の公開（見える化）。 |
| その他 (民間) | ① 河川周囲の美化活動を実施している団体がない。 | A) 市民と一緒に美化活動を行う。 |
| | ② 道路・側溝工事の手抜き業者がいる。 | B) 事業者は決まり事を遵守する。地域は行政へ指導を要請する。 |
| | ③ 地下水を独占的に使用している企業がある。 | C) 住民・行政・企業の三者協議による地下水の活用見直しと新しい活用協定を締結する。 |
| 行政 | ① 河川や水路の環境整備や清掃活動に、市民の関心が低く、関わりが少ない。 | A) 日ごろから地域住民や組織（自治会や民児協等）とのコミュニケーションを密にして情報共有と活動連携に努める。 B) 地域や企業との連携により、水・森林等の資源の管理体制を確立し、時代の流れにあった運用指導を行う。 C) 環境学習を学校の授業（月に1回位）に組み込む。 D) 環境保全はボランティアと連携しながら整備し、清浄されたところを、ビフォー・アフターとして写真をSNSなどにアップする。 E) 水田や竹林を維持は温室効果ガスの抑制に寄与するため、これらを行う活動に市からの補助金を交付する。 |
| | ② 環境問題は100年50年の先を考えて検討する必要がある。 | F) 小学校・中学校における子ども達への教育の充実。 |
| | ③ 河川は、広域すぎるので把握しにくい。 | G) 防災マップの充実を図る。 |
| | ④ 蚊がたくさんいる。 | H) 河川消毒を行う。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) ボランティア精神を持った実行力のある前向きなリーダーまたは個人と行政がより連携する必要がある。
- (イ) 小畑川クリーン作戦と市のごみゼロ運動には参加や周囲への声掛けをしている。イベントとしてその日は一生懸命清掃をするが、その後、そういった活動を日頃から継続的に行っている方が増えているわけではないと思う。
- (ウ) 小畑川を開放する日に、年間数日はバーベキューを可能にすれば、小畑川環境に関心が集まり、小畑川クリーン作戦などゴミ清掃への若者、家族での参加が増えるのではないかと。

(エ) 学生などに参加を呼びかけ、ボランティア養成講座を市民団体と市が連携して行い、ボランティア活動をする場所も整える。

(オ) 地域活動について、長岡京市は大企業もたくさんあるので、企業の方に協力してもらうのはいいことだと思った。どの企業も地域をよくするための取組みはしているはず。私も仕事の関係で京都の鴨川清掃や祇園祭りのごみ拾いに参加したことがあるので、企業を使うというのも一つの手段かと思う。また、市内の中学生や高校生に、授業の一環として参加してもらうのはどうか。

《その他の課題》

(1) 公園の遊具が少ない。

(個人の課題と解決する方法)

- ・学齢期前の子どもや親が遊ぶ。

(地域の課題と解決する方法)

- ・子どもたちが安全に遊べるように見守る。

(行政の課題と解決する方法)

- ・どこの公園にどんな遊具があるのかをマップで知らせる。

(その他民間等の課題と解決する方法)

- ・遊具設置のための資金の提供。

(自由記載)

- ・環境問題の解決に向けて取り組むことで、教育、福祉、防災などの問題解決につながっていけると思う。

《その他の意見》

(自由記載)

- ・温室効果ガスを減らすことで、おいしい地下水を守ることになる。

【環境課題の認知度の低下・活動参加者の意識格差】

- 4 西山は、手入れ不足により森林や竹林が荒れ、竹林拡大が進行するなど様々な課題を抱えているが、現状を知らない市民が多く、活動に参加する人の意識に格差がある

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|---|--|
| 個人 | ① どのような整備が必要かわからない。課題を知っても行動に繋がらない。 | A) パンフレットやホームページで地域の情報を収集する。 |
| | ② 竹藪の所有者が、高齢化により、手入れのできていない竹林があるが、個人の所有地で勝手に手入れができない。 | B) 筍畑を拓げる。 C) 仲間を集めて、所有者の許可を得て、竹林の手入れをする。 |
| | ③ 西山は空気のように当たり前の存在であり、環境それ自体にあまり関心が向かない。 | D) 西山に行き、自然に触れる。 E) 現在挙げられている環境問題を知る。 F) 広報、SNSなどを積極的にみる。 G) いかに環境を保持し、後世に残すかが重要で、一人ひとり高い意識を持つ。 H) 自分事として自然豊かな西山の環境保全活動に関心を持って、継続した活動をする。 I) 自分のできる範囲で環境問題の解決実践事業に参加する。 |
| | ④ 西山森林整備推進協議会など、西山での取組みを知らない。 | J) 自分から情報を取りに行くようにする。 K) 広報等を積極的に読む。 |
| 地域 | ① どのような整備が必要かわからない。課題を知っても行動に繋がらない。 | A) コミュニティでの話題、議題に、西山のことを挙げる。 |
| | ② コロナ禍で、自由に行動することができず、集まって作業することが難しい。 | B) オンライン会議やSNSなどを活用して、協議を進めていく。 |
| | ③ 手入れ不足により森林が荒れており、放置竹林が拡大している。 | C) 森林整備への協力と参加を呼び掛ける。 D) 住民・NPO、行政と連携して、放置竹林対策をする。 E) シルバー人材センターに依頼して整備する。 F) 西山の自然の恵みを守り続けることを |

| | | |
|-------------|------------------------------------|--|
| | | 使命とした西山テーマパークを市と協力して構想し、実現に向けて協力する。 |
| | ④ 西山森林整備推進協議会など、西山での取組みを知らない。 | G) 井戸端会議などでもよいので、難しく考えず、とにかく話題に上げてみる。 |
| その他 (民間) | ① 森林ボランティアが十分機能していない。 | A) 福祉施設(作業所)と共同して、手入れを行い、竹を使った商品づくりを行う。 B) 各団体が連携して得意分野を活かし、多くの市民がボランティアに参加してもらえるように、活動内容を明確化していく。 |
| | ② 西山に関心の高い人、低い人のばらつきがある。 | C) 西山に関するイベントを開催し、集まり知ってもらう。 |
| | ③ 手入れ不足による森林や竹林の拡大、放置森林や竹林が増加している。 | D) 自分ごと化会議で実績のある構想日本が「西山テーマパーク構想」の総合実施計画を策定する。 |
| 行政 | ① 西山の放置竹林の広がりが止まらない。 | A) 荒れている竹林の状態を把握する。 B) 福祉事業所と連携して、様々な商品を制作してもらい、長岡京市のアピールグッズに活用していく。 C) 課題を解決する実施計画(短期・中期・長期の三段階)の策定を構想日本に依頼する。 D) 西山の自然の恵み(水・森林・特産物)を守り続けることを使命とした西山テーマパークを構想する。 E) 西山テーマパークを市と協力して構想する民間企業を選定する。 |
| | ② 個人所有地なので行政指導が難しい。 | F) 行政から個人所有者への資金援助により、整備する。 G) 事業用地の地権者の同意取得。 H) 西山テーマパーク事業や取組みの広報。事業用地の地権者の同意取得。地権者の依頼を取り纏め。公共事業の実施。 |
| | ③ 地域の課題に対する住民の意向が不明確。 | I) 地域組織(自治会や民児協など)と協力し、地域ごとに住民の意向調査を行う。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 集団より個人が大事な時代。集まって森林のことを議論するなどの機会が乏しい。西山の課題は、自分も今回（自分ごと化会議で）初めて知り、貴重な機会だった。みんながこういう会議に参加するわけではないので、情報を得にくいのではないかな。
- (イ) 西山森林整備推進協議会の活動にはボランティアだけでなく、福祉施設とも連携し、障がいのある人にも社会参加の機会を作る。
- (ウ) 西山の放置竹林等の課題を考えるにあたっては、環境教育しかり、多様な住民が関わることができるところを設ける。西山の課題解決（出口）を防災や観光、環境などと結びつけて考える。

【知る機会の少なさ・情報不足】

5

環境保全のための啓発があっても、情報が溢れすぎていて、素通りしてしまう

これまで通りの情報伝達方法では、環境問題の啓発や課題を知る機会が失われている

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-------------|--|--|
| 個人 | ① 行政からは様々な環境啓発があるが、必要な情報以外は見ない。結果として、市は環境課題の解決のために、どのような活動をしているのか知らない。 | A) 広報誌で情報収集する。 B) 身近な人がSNSなどで環境保全啓発をしたら、心に響く（啓発が届く）。 C) 環境ボランティアに参加し、実体験から活動を知る。 |
| | ② 西山は自然が豊かなイメージがあるが、実際に足を踏み入れる機会がない。 | D) 西山を知るきっかけとして、キャンプをしに行く。 |
| | ③ 公的な役割を果たしている市民活動団体も、高齢化していて、とても共感できる活動でも、参加する余裕がない。 | E) 個人でできる環境への取組みを行う。 |
| 地域 | ① テーマを決めて勉強会をしようとしても、行政の出前ミーティング以外にネタがない。 | A) テーマ型団体の人に講師をしてもらう。 |
| | ② 地域の中で環境の事を考える機会が少ない。 | B) 地縁団体の活動の中で、テーマ型団体にサポートしてもらう。 |
| | ③ 森林保全のために必要な情報が発信できておらず、現状を把握している人が少ない。 | C) 何をしてもらうか役割を明確にする。 D) 駅やお店などにチラシを置いてもらい、情報を得る機会を増やす。 E) 地域コミュニティ協議会の会報に、環境問題の啓発や課題を掲載する。 |
| その他 (民間) | ① 企業にしかできない環境貢献をしたくとも、経営とのバランスをとることが難しい。 | A) 企業としてSDGsに貢献するため、経営（経済）と環境貢献を目指す。 |
| | ② 環境ボランティアの数が不足している。 | B) 大学のボランティアサークルへ、積極的に呼びかける。 |
| | ③ 森林保全のために活動している情報があまり発信できていない。 | C) 各団体のホームページなどの内容を充実していく。広報誌し、チラシにQRコー |

| | | |
|----|--|---|
| | | ドを入れるなどの工夫をしていく。 D) 西山をブランド化する。 |
| 行政 | ① 市HPや広報誌、チラシなどを作るも、なかなか市民に伝えることができない。 | A) 「市民→市民」の啓発が活発化するような仕組みを作る。 |
| | ② 市役所に行かなければ、課題や活動を知ることができない。 | B) SNS、ICTを活用し、発信する。自分ごと化会議のような気軽に参加できる会議体を作る。 |
| | ③ 環境ボランティアの数が不足している。 | C) Twitter等で大学のボランティアセンターあるいはサークルに呼び掛ける。 D) ボランティアが集まるように、いったん市役所集合にして少し指揮をとって参加しやすくする。 |
| | ④ 啓発や活動のきっかけづくりをするものの中から、新たな参画に繋がらない。 | E) 「行政→市民」への啓発だけでなく、「市民→市民」への啓発の促進。 F) 西山に関心を持つきっかけとして、グランピングのできる施設を整備する。 |
| | ⑤ 広報で発信しているが、市民に森林整備の必要性を広く知ってもらえていない。 | G) 広報以外でも、広く情報発信、意見を募る方法として、SNSなどを活用し、動画を取り入れるなどの工夫をしていく。 H) 市民に森に触れてもらえるような仕組みを作る。 I) 個人が活動できる部分を、行政等が明確化していく。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 長岡京市に住んでいても知らないことがたくさんある。(西山の取組みや課題など) どこでどうやって知れるのかが分からない。市役所に行かなければ知ることができない情報であれば、大多数の人は知らないと思う。

(イ) 今はインターネットが発達しているので、情報はいつでも取れる。森林など問題になっていることを現代の技術であるICTやSNSを使って目に触れる機会を作ればよいと思う。市役所は気楽にいくところでもないの、掲示板やSNSで情報発信できる機会を増やすとよいのではないかと。

(ウ) 行政情報の発信ツールの対象者や効果を見直し、ICTを活用したツールだけではなく掲示板等アナログなツールの工夫もする。

《その他の課題》

(1) エコ建築を普及させる。

(個人の課題と解決する方法)

- ・住宅の寿命自体が30年くらいだと導入しにくい。価格が高くなり決断しにくい。
→市・国からの補助金。

(行政の課題と解決する方法)

- ・エコ建築のメリットが市民に伝わっていない。
→市民への啓発。

第2班 防災・防犯

1 会議開催概要

(1) 第1回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2020年12月12日（土）13:30～16:00
- イ 会 場：長岡京市中央生涯学習センター6階創作室1
- ウ 参加者：19名
- エ 概 要：自己紹介、災害時の要配慮者について、自治会の加入について

(2) 第2回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年4月10日（土）13:30～16:00
- イ 会 場：産業文化会館3階会議室1・2
- ウ 参加者：13名
- エ 概 要：自治会・協働について、市の防災施策と避難所・分散避難について
防災の支援、要配慮者について
- オ 市説明者：自治振興室（自治会・協働について）
社会福祉課（要配慮者について）
防災安全推進室（市の防災施策と避難所・分散避難について）

(3) 第3回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年7月4日（日）13:30～16:00
- イ 会 場：長岡京市役所大会議室A
- ウ 参加者：12名
- エ 概 要：市の防犯施策について
- オ 市説明者：防災安全推進室（市の防犯施策について）

(4) 第4回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年7月25日（日）14:00～16:30
- イ 会 場：産業文化会館3階会議室1・2
- ウ 参加者：10名
- エ 概 要：自治会の意義・必要性について、避難所運営について
要配慮者支援制度について、市民への情報提供について
- オ 市説明者：防災安全推進室（市の防災・防犯施策について）

(5) 第5回自分ごと化会議

ア 開催日時：2021年10月30日(土)10:00～12:30

イ 会 場：開田自治会館

ウ 参加者：10名

エ 概 要：提案書案の確認

2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

課題

【共助システムの弱体化】

- 1 各自治会の加入率が低下しており、さらに価値観の多様化に伴い自治会の存在意義が危うい状況である
このままでは、災害発生時に地域としての対応が困難になる

課題

【防災意識の差】

- 2 比較的災害の少ない長岡京市では、防災に対する意識に差異がある
災害発生時を想定した、防災用品準備や防災訓練、避難経路や避難所運営など検討する必要がある

課題

【要配慮者に対する支援体制の脆弱さ】

- 3 地域住民全体が高齢化し、防災の担い手が少なくなる中で、災害時における要配慮者の避難方法が不明瞭である
要配慮者と支援者の関係性や、個人・地域・行政の支援体制を構築する必要がある

課題

【防犯意識の低下】

- 4 防犯意識が低く、防犯活動を行っていてもマンネリ化している
しかし、灯りの少ない危険な場所や不審者が出没している情報もある
地域防犯をどのように維持するか課題である

課題

【地域住民間の情報交換機会の低下】

- 5 近所で何が起きているか情報がなく、防災・防犯のインフラとして、スマートフォンなどの新しい技術を活用した情報共有体制が必要である

課題

【共助システムの弱体化】

- 1 各自治会の加入率が低下しており、さらに価値観の多様化に伴い自治会の存在意義が危うい状況である
このままでは、災害発生時に地域としての対応が困難になる

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 | |
|----------------------|--|--|---|
| 個人 | ① 近所の人を知らない、または無関心。 ② 自分がどこの小学校区に住んでいるのかもわからない。 ③ 近所でも知らない人に声掛けしづらい。 | A) 向こう三軒両隣の精神で周囲の住民を把握する。 | |
| | ④ 住民同士の交流の機会が減っている。 ⑤ 行政に市民の声が届いているのか、どう伝えるのかわからない。 | B) 自分ごと化会議のような会議を開催し、周りの人に話をする。 | |
| | ⑥ 自治会の活動内容や加入するメリットがわからない。 | C) 自治会活動を知り、加入する。 | |
| | ⑦ アパート住まいの方達は、自治会に加入しなくてもいいと思ってしまう。 | D) 自治会の大切さを伝える。 E) 自分は、自治会を脱会しない。 | |
| | ⑧ 地域活動には参加したいと思っても、自治会は仕事や子育てに忙しく、休日は自分の子ども中心の過ごし方となり、地域活動に充てる時間がない。 | F) 自分なりの解決策や自分が参加してみたい事業を提案する。 | |
| | ⑨ 世代間の価値観の多様化により自治会の会員伝承が難しくなっている。 | G) 自分の子供には、自治会の会員伝承をしっかりと行う。 H) 地域での交流に異世代の方も巻き込んでいく。 | |
| | ⑩ 地域の安心・安全の維持は行政の仕事と考えている。 | I) 地域の住みやすさ、不便さを自分事として点検する。 | |
| | 地域 | ① 地域のことに地域の人に関心を持っておらず、自治会の必要性や魅力をPRするも伝わっていない。 | A) 自治会の必要性をPRする。 |
| | | | B) 地域の人に自治会の有用性を理解してもらう機会を作る(自治会の有用性に見える化)。 |
| | | | C) 自治会費、役員の個人的負担、当番など具体的な内容をチラシにして配る。 |
| D) 災害時は自治会活動が必要だと周知す | | | |

| | | |
|-------------|--|--|
| | | <p>るためにも、防災マップのお知らせに、自治会の役割を明記する。</p> <p>E) 加入は任意だが、お試して入ってもらって、退会もOKだと伝える。</p> |
| | ② どのように地域の声を集めるか。 | <p>F) 定期的に地区住民にアンケート調査を実施し、ニーズ把握をする。</p> <p>G) 行事をやることでどんな方がどこに住んでいるのかを確認することができる。住民が、直接市役所に意見を言っても、市としても動きにくい、自治会で住民の意見をまとめて市に伝えると、市も動きやすい。</p> |
| | ③ 地域コミュニティ協議会の名称はあるが、何をやっているかわからず、動きもみえてこない。 | <p>H) 地域コミュニティ協議会の目的と活動の目標を明確にする。</p> <p>I) 時勢に合わせて協議会の在り方や会則を見直し改訂していく。</p> |
| | ④ 校区内で地域の参加者や校区間で参加者の思いに温度差がある。 | <p>J) 地域住民のサポートに全力を尽くす。</p> <p>K) 定期的に地区住民にアンケート調査を実施し、ニーズ把握をする。</p> <p>L) 市に頼らず、自立・自走できる地域コミュニティ協議会を目指す。</p> |
| | ⑤ 住民の少子高齢化に伴い、市民運動会への参加者が減少している。 | <p>M) 時勢に合わせて自治会の在り方や会則を見直し改訂していく。</p> <p>N) 運動会などの各種イベントのあり方や実施運営方法を見直し、必要に応じて変更していく。</p> <p>O) 自治会活動を活発に行い、住民全体の交流を進めていく。</p> |
| | ⑥ 新型コロナウイルスの影響で、自治会等コミュニティの行事がすべて中止。 | <p>P) 新型コロナウイルスの影響で、何でも中止にするのではなく、十分な対策をとって開催する方法を模索する。</p> |
| | ⑦ 自治会が要らないとは思わないが、必要性がなければ時代とともに淘汰されていくと思う。困ったことや情報を得たいときは自治会より市役所に行く。 | <p>Q) 個人で情報が簡単に取得できる時代なので、自治会は今までどおりのやり方ではなく、時代にあった姿に変わっていくことを検討する。</p> |
| その他 (民間) | ① 社会課題の解決方法を学びたい人の学ぶ場や、ボランティアをしたい人の活動の場や、機会が無い。そして、そのことの相談の場もない。 | <p>A) 社会課題の解決方法を学ぶ機会を提供し、地域で課題解決の企画提案を行うことで、地域と伴走しながら行政施策実現を目指す。</p> |

| | | |
|----|-------------------------------|---|
| | | B) 市民活動サポートセンターや社会福祉協議会などが学ぶ場を提供しているが「知らない」人が多い。情報提供が必要。 |
| 行政 | ① 自治会・地域コミュニティ協議会のPRが不足している。 | A) 広報誌等の掲載以外に様々なPRが必要。 |
| | ② 自治会非加入者でも町づくりに参加出来る制度が見えない。 | B) 転入時に書類で自治会の案内をする。 C) 地域の課題を地域で考え、地域で取り組む仕組みを作る。地域への伴走支援が必要。市民団体を活用する。 |
| | ③ 地域・市内には課題解決の人的資源がない。 | D) 人的資源を育て、政策実現に向けて協働を進める。 |
| | ④ 自治会に対する対応が不足している。 | E) 幅広い情報（全国、海外も含む）を地域（自治会等）や住民に提供する。 |
| | ⑤ 市民の声をどのように集めるのか。 | F) 専門部署やメールボックスを作る。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 地域に社会課題解決に取り組む市民（団体）をみんなで育てる（地域課題は地域で解決する。人材の地産地消）。
- (イ) 自治会、地域コミュニティ協議会など地域活動団体と行政がどのように繋がっているのか、命令系統がどうなっているのかをはっきりさせる。

《その他の課題》

- (1) 現在住んでいるマンションでは、自治会には入っていない。夫婦二人共働きで、日中ほとんど家にいないため、自治会がなくても困っていない。子どもができれば変わるかもしれないが、状況によって、必要なコミュニティは変わってくる。

【防災意識の差】

- 2 比較的災害の少ない長岡京市では、防災に対する意識に差異がある
 災害発生時を想定した、防災用品準備や防災訓練、避難経路や避難所運営など検討する必要がある

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 正常バイアスが働きすぎて、災害のことを自分に起こることと考えられず、被災したイメージができていない。非常時の意識、防災意識が低い。 | A) 日頃から災害体験や防災訓練をする。 B) 完全に日常をルーティン化しない(違うことを1つ混ぜる)。 C) ハザードマップのチェック、家の耐震化、0次～2次の備えをする。 D) 家族で災害時の事(避難場所や避難基準など)を話し合う。 E) 友達を誘って参加する。 |
| | ② 自分で避難を判断することが困難。 | F) 自分ごと化会議のような会議に参加し勉強する。自分の住んでいる地域の危険について考える。 |
| | ③ 防災グッズを十分に用意できていない。必要なものが書かれたパンフレットなどを見ても、(水や食料など)持っているのか等の点から準備しづらい。 | G) 自助の備え(1次持出袋、備蓄)。マイタイムラインの理解と訓練。 H) 日ごろから防災グッズを用意し、中身を確認しておき、準備しておく。キャンプ用品からヒントを得て楽しく備える。 |
| | ④ 消火器の設置場所・使用方法が不明。 | I) 消火器の設置場所・使用方法を学ぶ。 |
| 地域 | ① 団体単位で正常バイアスが働いている。 | A) 地域の中で、月1回、どこが危険なのか話し合う。マップを作成する。 |
| | ② 災害時に、担い手が高齢化し、自分の事以上に地域の機敏な対応が困難。 | B) 地域の避難所への早めに避難する。 C) 日頃から地域内に居場所(サロン)を作っておき、そこを地域の避難所とする。 D) 色々な状況を想定しての訓練をする。 E) 地区総合計画作成を目指して行政や防災市民団体とともに取り組む。 |
| | ③ 災害時に、どこに集まって何をするのかわからない。 | F) 各自が勝手に行動しないように集合場所を予め指定する。 G) 自治会役員が指定場所で指示を出す。 |
| | ④ 災害時に、地域の人顔が把握しきれて | H) 普段から地域の人とコミュニケーション |

| | | |
|---------------------|--|--|
| | おらず、自分が助かったとして、他者を助けることができるか不安。 | ンをとり、誰（要支援者など）がどこに住んでいるのか把握する。 |
| | ⑤ 地域の全員が防災グッズをしっかりと準備できているわけではない。 | I) 防災リュックの配布、チェックリストなどを定期的に継続配布する。 |
| | ⑥ 避難の方法などの防災情報を伝達する手段が、回覧板しかなく広がらない。 | J) ポスター、SNS、声掛けなど、色々なカタチで防災情報を周知する。 |
| | ⑦ 防災訓練の参加者が固定し、参加者が集まらない。意識が低く形式化している。 | K) 地域の夏祭りなど楽しい行事で人が集まる機会と併せて避難訓練を行う。 L) 企業・学校で行われている防災訓練に地域住民も参加できるようにする。 M) 消火器を活用した訓練を行うなど、避難訓練の内容を改善する。 |
| その他 (民間) | ① 介護施設・通所施設への避難が可能かわからない。 | A) 介護施設や通所施設への避難を可能にする。社協等による地域の居場所の運営支援と避難所化支援を行う。 |
| | ② 消火器の設置場所を知っておく。 | B) 消火器を積極的に使用するPRをする。 |
| | ③ 電力、電話、ガス等のインフラ事業者との情報交換ができていない。 | C) 防災訓練の時に、ブースを出してもらい情報提供してもらう。 |
| | ④ 防災市民団体や防災士会は、市の取り組みの方向性を理解していない。 | D) 行政と話し合う場を設け、市と方向性を共有して協働する。 |
| 行政 | ① 地域の防災体制が整わない。 | A) 地域や市民団体と協議の場を継続的に持ち、連携する。 |
| | ② 避難所が少なく遠い。 | B) 平時から、地域（自治会）での居場所の運営を支援し、災害時に避難所とする。 C) 企業・学校も含めて避難所として機能するように連携する。 |
| | ③ 避難訓練が形式化しており、逃げるだけの訓練になっている。 | D) 防災グッズを持って避難訓練に参加し、防災グッズの使い方の訓練も行う。 E) キャンプをしながらなど、市民が楽しむ防災の取り組みや、消防と連携し、消火器を使ったリアルな訓練を行う。 |
| | ④ 避難所での行動がわからない。避難所運営計画の作成が必要。 | F) 避難所での防災用品の使い方の講習会を実施する。 G) 避難所運営計画を作成する。 |
| | ⑤ 災害時における公民館の機能性が不明。 | H) 各小学校での防災訓練に加え、公民館の利用を含めた防災訓練を市が先導。 |
| | ⑥ 防災に関するPRが不足している。 | I) ハザードマップの更新、情報誌の配布、防災イベントの開催を増やす。 |

《その他の課題》

- (1) 自治会の必要性が、住民に伝わっていないことが根本と思われる。防災の問題だけではないと思う。
- (2) 小学校だけではなく、自分たちが避難する場所（公民館など）で避難訓練や避難所の運営訓練を行う。
- (3) 災害初期に行政は頼れず、まずは住民自身（自助）で対応する。その次は要配慮者への共助、その後行政と協力して公助を進める。自助・共助の大切さを住民全員が持つための意識づけをどうするか。
- (4) 災害時に、行政が避難所運営に携われないならば、誰が、会場設営、受付、割り振りなどを行うか不明。
- (5) 机上の計画を作るだけでは実現しない。地域の実情に応じたものを作るためには、協働の立ち位置で継続的取組みの仕組みを作る。

【要配慮者に対する支援体制の脆弱さ】

3

地域住民全体が高齢化し、防災の担い手が少なくなる中で、災害時における要配慮者の避難方法が不明瞭である

要配慮者と支援者の関係性や、個人・地域・行政の支援体制を構築する必要がある。

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|---------|---|---|
| 個人 | ① 近所の人に無関心であり、どんな人が住んでいるか知らない。 ② 近所に住んでいる人であっても声掛けしづらく、住民同士の交流の機会が減っている。 | A) 地域の方との繋がりを意識して高め、近所の人顔や状況を知る。 B) 普段からの交流で、高齢者世帯、要配慮者を把握する。 C) 要配慮者と支援者の両者を引き合わせるために、まずは両者の顔を知る。 |
| 地域 | ① 災害時における要配慮者に対する準備ができていない。 | A) 近所同士の付き合いを深め、災害時における安全確保につなげる。 B) 自治会の加入に拘らず、向こう三軒両隣声掛け運動を続け、協力体制を築く。 C) 民生委員との協力関係を構築する。 D) 要配慮者のマップを作成し、普段から気に掛ける。 E) 要配慮者自身が「自分がどう助けてほしいのか？」を発信できる場所をつくる。 F) 要配慮者支援計画を支援する側と支援を受ける側の両者で作る。 |
| その他(民間) | ① 介護事業者が、災害時における救護団体となっていない。 | A) 介護事業者を災害時における救護団体に取り込む。 |
| 行政 | ① 要配慮者の名簿があるが、個人情報保護の関係で、開示が難しい。 | A) 要配慮者とは何かを周知する。 B) 要配慮者名簿を自主防災会(要配慮者救護班)に開示する。 C) 避難訓練の時に要配慮者の参加を促す。 D) 災害時には、要配慮者を把握したうえで、できるだけ早く救助活動を行う。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 災害時における要配慮者がどうやって避難するのかが曖昧であるため、行政と地域がしっかりと協議を行い、自治会が要配慮者名簿の内容を把握する必要がある（現在、要配慮者名簿は自治会長が情報共有しているが、取り扱い方、活用方法の検討が必要）。

【防犯意識の低下】

- 4 防犯意識が低く、防犯活動を行っていてもマンネリ化している
しかし、灯りの少ない危険な場所や不審者が出没している情報
もある 地域防犯をどのように維持するか課題である

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-------------|--|---|
| 個人 | ① 暗くなると、不安を感じる道がある。 | A) スマホのライトや首から下げるライトなどを用いる。 |
| | ② 近所でも、通学路など、時間帯によって変わる姿を知らない。危険な場所（道・地域など）がわからない。 | B) 不審者や危険な場所の情報は、若者ほど多く知っている（学校情報など）ので、その情報を共有する仕組みを作る。 C) 学校の防犯メールへ登録してもらう。 |
| | ③ 防犯意識が低く、知らないことが多い。 | D) 1人ひとりが「1戸1灯運動」を進める。 E) 自宅の駐輪場の電気を少し長く点ける。 |
| | ④ 近所の事件でも情報を知らない。 | F) 新聞をとって情報を得る。 |
| 地域 | ① 担い手が高齢化し、外出しなくなる。 | A) 地域に多くの居場所(サロン)をつくり、可能な限りの地域で見回りをする。 |
| | ② 住宅街では人通りが少なく灯も少ない。防犯灯の設置が不十分。 | B) それぞれの地域で「1戸1灯運動」を積極的に取り組む。玄関灯をつけることなど、協力を依頼する。 C) 外出時に防犯灯の設置場所や電球切れを意識する。 |
| | ③ 「1戸1灯運動」が知られていない。 | |
| | ④ 防犯活動をやってもマンネリ化。流れ作業化してしまう。 | D) 最近の不審者情報や被害傾向を調べて今後の活動に活かす。 E) それぞれの地域の特徴(街路灯が少ない場所や人通りのない場所など)を捉えた防犯活動を検討する。 |
| | ⑤ 防犯活動が認知されない。 | F) 回覧板などで、防犯活動の内容を周知する（今月はこのような活動を行ったなど）。 |
| その他 (民間) | ① 会社周辺には街灯が少ない。 | A) 警備会社等による地域見回りシステムを導入する。 B) 会社の入り口だけではなく、周囲に灯りをつけてくれるようお願いする。 |
| 行政 | ① 灯りの少ない暗い場所等、危険な場所を把握しきれていない。 | A) 地域に多くの居場所(サロン)をつくり、地域の居場所(サロン)運営を支援する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | B) 定期的に市民アンケート等を実施する。 |
| ② | 不審者や危険な場所の情報は、若者の方が多く知っているが、その情報が伝わってこない。 | C) 学校に防犯メールへ登録してもらう。 D) 防犯メールを若者が使いやすい、使いたいと思うものを提供する。 |
| ③ | 防犯灯の設置台数が十分でないため、暗くて危険そうなどころがある。 | E) 防犯カメラ設置（見える化）により、不審者へ心理的圧力をかける。 |
| ④ | 河川沿いに照明が無く危険。 | F) 河川の除草、木の除去を行う。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 高齢者の外出機会を増やしていく（自宅から行ける範囲に居場所）取組みをしたり、行政や地域、警察、また警察OBが連携した見回りシステムの導入を検討したりする。
- (イ) 防犯灯の設置を依頼することが難しい人や自分の周辺に防犯灯が少ないことを知らない人もいると思うので、行政や各自治会は、市民への声掛けをして連携していくことが必要ではないか。

【地域住民間の情報交換機会の低下】

- 5 近所で何が起きているか情報がなく、防災・防犯のインフラとして、スマートフォンなどの新しい技術を活用した情報共有体制が必要である

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-------------|--|---|
| 個人 | ① スマートフォンは維持コストが高く、持っていない。 | A) 新聞をとることを止めて、そのコストをスマートフォンに充てる。新聞はデジタルで読む。 |
| | ② 高齢者にとって、スマートフォンの操作が難しい（できない）。 | B) 第三者に使用方法を説明できるように使用方法を習得する。 |
| | ③ 近所にパトカーが停まっていたり、お隣の家に聞き取りに来たりしていても、何があったのか情報を全く知らない。 | C) 防災・防犯メールに登録する。 |
| 地域 | ① 地域活動にスマートフォンを活用（SNS、防災・防犯メール）した方法が行き届いていない。 | A) 民間と連携して使い方講習会を開く。 B) 地域の防災・防犯情報のSNSを管理し、誰でも気づいたことを共有する。 C) Wi-Fiスポットの増設・整備。 |
| その他 (民間) | ① スマートフォン普及に対する取り組みが頭打ちになっている。 | A) (市からの委託などにより)使用方法講習会を開く。 B) 定期的にスマートフォン普及キャンペーンを行う。 C) 電波の使用可能エリアを拡大させる。 |
| 行政 | ① スマートフォンの月々のコストが高く、普及に関する具体的な前例がない。 | A) キャリアが値下げすることができなければ、利用に対する補助金を支給したり、住民税・所得税から1世帯当たりスマートフォン使用料相当額を控除する。 B) スマートフォンを市が買い上げ、レンタルサービスを行う。 |
| | ② スマートフォンを活用した防災・防犯対策となっていない。 | C) スマートフォンを活用した防災・防犯メールの案内を行う。 D) 防災・防犯のインフラとしてだけでなく、新しい行政サービスの提供方法として、スマートフォンの活用を図る。 |

第3班 高齢者

1 会議開催概要

(1) 第1回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2020年12月12日（土）13:30～16:00
- イ 会場：バンビオメインホール
- ウ 参加者：21名
- エ 概要：自己紹介、高齢者というテーマについて、住んでいる地域の課題について

(2) 第2回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年4月10日（土）10:00～12:30
- イ 会場：産業文化会館1階大会議室
- ウ 参加者：13名
- エ 概要：自治会・協働について
自治会・こども会の担い手について
高齢者の認知症・孤独死・メンタルヘルス・交通環境について
- オ 市説明者：自治振興室（自治会・協働について）

(3) 第3回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年7月10日（土）10:00～12:30
- イ 会場：長岡京市役所大会議室A
- ウ 参加者：12名
- エ 概要：直近の地域活動の現状について
公的な支援と地域の役割について

(4) 第4回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年7月25日（日）10:00～12:30
- イ 会場：産業文化会館1階大会議室
- ウ 参加者：17名
- エ 概要：地域コミュニティ協議会の役割について
地域の活動への若い世代の巻き込み方について

(5) 第5回自分ごと化会議

ア 開催日時：2021年10月23日(土)10:00～12:30

イ 会 場：開田自治会館

ウ 参加者：14名

エ 概 要：提案書案の確認

2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

課題

【高齢化に伴う自治会の弱体化（担い手不足）】

- 1 地域全体が高齢化しており、自治会も担い手不足である。その活動を知らない人も多い 他団体との連携も難しい

課題

【世代間の交流、新旧住民の交流の不足】

- 2 地域において高齢者と若者が触れ合える機会や交流の場がなく、縦のつながりが希薄である 新旧住民の交流機会も少ない

課題

【老後を楽しむための環境の不足】

- 3 高齢者が心も身体も社会的にも健康であるため、地域の役割は大きいですが、充実した老後を楽しむための環境が不十分である

課題

【地域での見守り、支え合いの脆弱さ】

- 4 独居高齢者、老々介護など、今後も増加するであろう社会問題に対し、行政だけでは対応しきれない
これに対応するため地域の役割は大きいですが、地域での見守り・支え合いの仕組みに不安がある

課題

【外出困難者のサポート不足】

- 5 高齢や障がいなどにより、買い物やごみ出しなど、外出が困難な方が今後ますます増加していくことが想定されるが、それをサポートする仕組みが不十分である

課題

【高齢化に伴う自治会の弱体化（担い手不足）】

- 1 地域全体が高齢化しており、自治会も担い手不足である。その活動を知らない人も多い 他団体との連携も難しい

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|---|--|
| 個人 | ① 自治会活動や地域コミュニティ協議会の活動について知らないことが多い。 | A) 自分自身から学べるようにする。 B) 広報や自分ごと化会議などから学ぶ。 C) イベント参加でまず活動内容を知る。 |
| | ② 隣近所の間人間関係がストレスであり、コミュニケーションが不足している。 | D) できる限りいろいろな人と知り合う機会をオンライン、オフライン共につくる。 |
| | ③ 隣近所の人だれかわからない。転入転出があっても知らない。どれだけの高齢者が住んでいるのか、どのくらいの子どもがいるのかわからない。 | |
| | ④ 引っ越してきた際に隣近所に挨拶をしても、そのあとの繋がりが無い。 | |
| | ⑤ まわりは30から40代の子育て世帯で自分には子どもがいないので、親同士の付き合いにも入れない。 | |
| | ⑥ コミュニティに縛られるのが嫌。 | E) 自分もコミュニティのメンバーと自覚する。 F) 自治会の活動に積極的に参加し、良さを他の人（近所）に伝えていく。 G) 行政と地域住民が話し合う場を設けて協議し、具体的な行動を起こす。 |
| 地域 | ① 高齢を理由に自治会を辞めてしまう。今の自治会の担い手不足の状況で、辞めた高齢者までカバーすることは難しい。 | A) 高齢者が元気な状態を維持する。 |
| | ② 自治会の役員や運営の基本単位である組長の担い手が、高齢化のために少ない。若い世代が担う場合にも、ゴミ出し、ネットかけなど、特に共働きやPTAなどの他団体もあり、負担が大きすぎる。 | B) 自治会の活動内容（仕事削減）を見直し、それぞれの負担を減らし、スムーズな運営が行えるようにする。 C) 自治会の形を変える、もしくは新しい形を模索する。 D) 自治会の存在意義、目的、メリットを明確にする。 |

| | | |
|---------------------|--|--|
| | | E) 自治会や地域コミュニティ協議会、その他各地域活動団体の役割を明確にする。 F) 自治会の仕事をアウトソーシングする。 |
| | ③ 地域のイベントがマンネリ化、特に運動会は毎年変わらず、また高齢者向けのイベントが少ない。 | G) 民間を含め様々な人へ企画協力を求め、楽しいアイデアを盛り込む。 H) 運営について、財政的なスポンサーとなってくれる企業やイベントを共催してくれる企業を探す。 |
| | ④ 地域コミュニティ協議会が何をやっているのかが見えにくい | I) 地域コミュニティ協議会は、防災の活動など、単独の自治会だけでは難しい取組みを横断的に行う。 J) 引っ越してこられた方向けに、簡単に地域コミュニティ協議会とは何かを説明する。 |
| | ⑤ 自治会や地域コミュニティ協議会、その他地域活動団体の連携ができていない。 | K) いくつかの団体をうまくつなぐコーディネーター的存在が大事。 |
| | ⑥ 自治会館を上手く利用しにくい。 | L) 自治会館などの場所を提供する。 |
| | ⑦ みんなで気軽に集まれる集会所がない (365戸の団地であるが、高齢化が進み、隣同士でもほとんど話さない。「両隣の会」は月1回集まるフランクなものだが集会場所に苦勞する)。 | M) 誰もがくつろげるサロンを作り、地域の連携を密にする。月1回でも集まって「おしゃべりサロン」のような会合を開き、話し合いをする。 N) 第5小学校区では空き家がいくつかあるため、有効活用できるか調査を行う。 |
| | ⑧ 自治会に「別に入らなくてもいいから」とアナウンスする人がいる。 | O) 「できる限り加入してほしい」と呼びかける。 |
| | ⑨ 梅が丘に自治会がない。自治会がないと人集めが大変で、人を知らないから探すのが難しい。 | P) 自治会を設立する。 |
| | ⑩ 自治会がないと縦の関係がなくなる。 | |
| その他 (民間) | ① なし | A) なし |
| 行政 | ① 自治会や地域コミュニティ協議会、その他地域活動団体の連携ができていない。 | A) 地域住民がつながろうと思える形のコミュニティ組織を作る。 |
| | ② 自治会活動や地域コミュニティ協議会の活動について知らないことが多い。 | B) イベント活動への協賛。 C) 学校の授業などで、コミュニティに係わる機会と場を作る。 D) 学校で地域イベント参加を単位として認める。 E) 様々なコミュニティの情報をSNSなど |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>様々な媒体を使って発信する。</p> <p>F) 自治会活動を広く認知されるようなポスターなどによる呼びかけを行う。</p> |
|--|--|---|

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 自分の将来に関わることなど、「参加するとこんな良いことがある」ということをわかるようにする。
- (イ) 娯楽が増えて個人の幸せが大切な時代に、地域の運動会は尊いがこれからの時代に必要かなど、そうしたことを考えるにあたって「上手くいった事例の共有」が大切。そのためにもPDCAサイクルを回して、うまくいったことを残す。
- (ウ) 幅広い人に参加してもらうために企画した行事なのに、結果的に同じ人ばかりという状況がある。

《その他の課題》

- (1) 地域の特質によって自治会の内容も変わるのではないかと。時代の変化によって生まれた新しい課題（高齢化や子育て、防災など）に自治会が対応できていない。
- (2) 地域コミュニティ協議会は自治会と同じなのかなと思っていた。引っ越してこられた方向けに、簡単に地域コミュニティ協議会とは何かを説明するお知らせがあってもいいのではないかと。
- (3) 自治会の活動は中止や書面会議になっている。組長会は全体で行くと密になるため、2班に分けて行っている。自治会内で顔を合わせる機会が少ないので、役員同士の意思疎通が希薄になっている。老人クラブ、サークル等の活動も自粛している。
- (4) 「久貝安心暮らしっく熟」を自治会活動に縛られずに横のつながりを作れないかという観点から立ち上げた。月に数回、地域の専門職の方（事業をしている方、住職など）に講師として話してもらう活動で、50名ほどが参加している。そこでの経験から、市全体として何がどう良くなったのか、具体的な評価軸があれば、様々な活動をつくりやすいのではないかと。指標の例として、地域の要介護認定を受ける平均年齢を下げるなど。
- (5) 自治会は本当にいるのか。若い人は興味ない人が多いと思う。自治会を作っても、やらされているだけの人が多い。行政でなくても、地域だけで解決できることもあるが、なんでも自治会を通してやるというのは無理がある。
- (6) 自治会に入りませんかという案内もない。

【世代間の交流、新旧住民の交流の不足】

- 2 地域において高齢者と若者が触れ合える機会や交流の場がなく、縦のつながりが希薄である 新旧住民の交流機会も少ない

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|---------|---|--|
| 個人 | ① 若者が、地域活動に参加する時間とメリットがなく、関心も低い。 | A) とりあえず活動に参加してみる。 B) やりたいことの声进行上げる。 C) 自治会以外でも、参加したいコミュニティを積極的に調べて、参加する。 D) 親から地域活動の意義を話す。 E) 積極的に若い人に寄り添い、話しかけ、若い世代の輪に入っていく。 |
| | ② 地域のイベントを知らない。 | F) 広報などで情報収集をする。 |
| | ③ 1人ひとりの心持(知識・行動・相手の立場で考えられるかどうか)の問題。 | G) 1人ひとりが、コミュニケーション・人間関係・心理学・ファシリテーション・情報発信などのスキルを学ぶ。 |
| 地域 | ① 自治会活動や地域コミュニティ協議会の活動について知られていない。 | A) イベントから活動自体を知ってもらえるようにする。 |
| | ② 昔からある自治会は、新規に入りにくいところが多い。地域により異なるが、引っ越してきた若い世代に排他的で元々の高齢世代と馴染むことが難しい。 | B) 新住民に声をかけ、自治会に入るべきものという意識づけを行う。 |
| | ③ 子ども・若者と高齢者の世代を超えたつながりが希薄。 | C) 魅力的な交流の場を作る。 D) 高齢者の知恵や経験を若者に直接伝える機会を作る。 E) ラジオ体操を平日は高齢者だけでもいいが、休日は子供から高齢者まで参加できるようにする。 F) 学校との協力やつながりを強化する。 |
| | ④ 新たなイベントの企画の立案がない。 | G) アイデアを出せる人が必要。魅力のある企画を提示。 |
| その他(民間) | ① なし | A) なし |
| 行政 | ① 高齢者と若者の触れ合う場所と予算の提供がない(少ない)。 | A) 何かやろうとしても先立つものが自治会にはない。行政から補助金をだす。 |

《その他の課題》

- (1) 同世代の横のつながりも重要だが、若者と高齢者の縦のつながりも構築していく。
- (2) 自治会で追加のイベントなど何かやろうとしても先立つものがない。(自治会に入っていない人の)意識改革も隣近所が案内しても難しい。そういった煩わしさから逃れてきた人に、煩わしい行事に参加してくれと言っても動くとは思えない。
- (3) 新しく引っ越された方に、自治会加入の呼びかけや行事の参加の声掛けをしても来てくれない。最初は敬遠していても、班長をして運営に携わることで楽しさに気付くこと方もいる。
- (4) 歴史や背景などの差により、自治会は一括りにはできない。新たに開発されたところでは、新しい人が中心になって組織されている。新しく住まれた方と昔から住まれている方が混在している地域では、自治会運営が難しい。元々の住民と新住民の橋渡し役が必要。
- (5) 自治会運営は、昔から住んでいる方達が主となっている。自治会館の土地や建物は、昔の人が資金を出し合ったものだし、神社の氏子もそういった人が担ってきた。新しい人との分断がある。
- (6) 公園の中での遊び方が危険。
- (7) 公園周辺もきれいになり迷惑駐車が多い。
- (8) 核家族が進んでいて先輩ママの意見を聞く機会が少ない(子どものイヤイヤ期が大変)。
 - (個人ができること)
 - ・個人としては、イヤイヤ期は卒業したが、同じ内容で悩んでいる方を助けたい。
 - (行政ができること)
 - ・子どもの検診で集まった時に呼び掛ける。

【老後を楽しむための環境の不足】

- 3 高齢者が心も身体も社会的にも健康であるため、地域の役割は大きいですが、充実した老後を楽しむための環境が不十分である

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 高齢者が他の高齢者との人間関係を築き、いきいきと暮らすような姿があまり見られない。 | A) 地域の高齢者がどんな人なのか知る（1人暮らしなのか、家族とか）。 B) 積極的に声掛けを行い、色々な人と交流する。 C) 老後にしたいこと（環境保護・防災・育児などのボランティア）をもつ。 |
| | ② 高齢者が家に引きこもり、孤立化する。 | D) 日常的なつながり合いを意識する。 E) 積極的に外出を心がける。 F) 高齢女性がプロによるメイク体験を試してみる。 |
| | ③ コロナ禍で高齢者のコミュニティ、クラブ・サークル活動ができず、家に引きこもりストレスが溜まる。高齢者は体力の低下が早い。数か月家に引きこもってしまうと、リカバリがとれなくなる。 | G) 毎日10分間のラジオ体操、毎日1万歩のウォーキングを実施する。 |
| 地域 | ① 自治会としての企画がない。 | A) 高齢者向けのイベントを企画する。 B) ボランティアとしても参加してもらおう。 C) エステ、ビューティー従事者に協力してもらい、高齢女性のプロによるメイク体験ができる機会をつくる。 |
| | ② 高齢者の生きがいに繋がる活動が少ない。 | D) サロンを立ち上げたり、サークル活動に参加したりするなど、居場所を作る。 E) 高齢者それぞれの趣味や特技を披露する、共に楽しむ会を作る。 F) 生涯学習塾を開講する。 G) ボランティア活動に積極的に参加する。 |
| | ③ 地域の中での繋がりが少なく、どのような趣味を持っているのか不明。 | H) 自治会のネットワークでみんなの興味を拾い上げ、地域の人が使っているサービスをまとめて紹介する。 I) 高齢者が気軽に出かけられ、高齢者同士でおしゃべりできるようなサロン（カフェ） |

| | | |
|-------------|--|---|
| | | エ) を作る。 |
| | ④ 老人クラブの加入率が低い。 | J) 活動の多様化を図り、興味的一致するもので誘い掛ける。 K) 地域の中での役割を与え、ひきこもり・孤立させない。 |
| その他 (民間) | ① 既にあるクラブ・サークルに参加するには、そのサークルの敷居が高い。 | A) 新たにエステ、ビューティー従事者に協力してもらい、メイク体験をしてもらう。 |
| | ② コロナ禍で、クラブ・サークル活動には消極的な雰囲気が続いている。 | B) クラブ・サークル活動の再開の目途を立てる。別の手段で活動できないかアイデアを募る。 |
| | ③ シルバー人材センター会員の人手不足。 | C) シルバーに登録することにより、社会的な充実を得る。 |
| 行政 | ① 市内にどのようなサークルがあるのか不明。 | A) 市内の市民活動団体を把握し、市民や地域へ周知し、活動の活性化につなげる。 |
| | ② 市民が新たなサークルやサロンを立ち上げる際の財政的な支援がない。 | B) 新規立ち上げに対する補助金を導入。 C) 地域でサロンを立ち上げる際の場所を提供する。 |
| | ③ 高齢者をメインとしたイベントがない(少ない)。 | D) 独身の高齢者をマッチングするイベントを企画する。 E) 高齢者が外で活動した際、喜びそうな寂しさを埋める特典を与える。 |
| | ④ 健康を保つには必要なウォーキングがしにくく、困っている場所(トイレがない)がある。 | F) ウォーキングスポットにトイレを設置する。 |
| | ⑤ 情報をHPに載せているが、文章だけでは説明しているものが多く、見づらい。 | G) 目に入りやすいデザイン等で紹介。 H) ポスター等で「いきいきと暮らそう」のような呼びかけを行う。 |
| | ⑥ LINEを活用するのはいい方法だが、高齢者には、教える人がその場にはないと活用することが難しい。 | I) 使い方講習会を開催する。 |
| | ⑦ 医療保険・介護保険財政の逼迫。 | J) 介護認定を受ける最初の年齢の平均値を調べ、市全体で情報を共有し、問題を自分事化する。 |

《その他の意見》

- ・シルバー人材センターに加入したから楽しめるかは個人による。

【地域での見守り、支え合いの脆弱さ】

4

独居高齢者、老々介護など、今後も増加するであろう社会問題に対し、行政だけでは対応しきれない

これに対応するため地域の役割は大きいですが、地域での見守り・支え合いの仕組みに不安がある

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 自分にはまだ関係のないことという意識がある。 | A) 自分の家族が高齢者になった時の介護や自分が被介護者になった時のことを自分事として考える。 |
| | ② 独居老人、情報弱者への伝達方法を工夫する必要がある（コロナ禍で訪問するも十分に話を聞くことができず10日後に死去した）。 | B) 近隣の独居高齢者を把握し、近隣だからこそできる声掛け、安否確認をこまめに行う。 C) 隣近所で異変を感じたら行政に連絡。 D) HP、LINEなどデジタルは難しいので、できるだけアナログな方法をとる。 |
| | ③ コロナ禍で対面での関わりが難しい。 | E) コロナ禍でも外で距離を開けて話をするレベルなら可能か。 |
| | ④ 家族との関係の希薄さを痛感する。 | F) 家族・親戚の状況を理解する。 G) 親戚や介護サービスなど頼れる人を確保しておく。 |
| | ⑤ 独居高齢者の情報がない。各世帯の年齢層などの情報が欲しい。 | H) 高齢者の暮らしや地域の独居高齢者に関心を持つ。 |
| | ⑥ 高齢者の生活リズムが合わないため、困っていることが何か聞きにくい。 | I) なるべく身近な人と繋がりを持つ。 J) 声掛け運動の提唱。 K) サロン形式（自治会とは異なるタイプのもの）での集会。 |
| 地域 | ① 独居高齢者などは地域とのつながりが少ない。 | A) 自治会としての見守り活動を進める。 B) 民生委員と自治会が協力して、独居高齢者などを把握し、見守りをすすめ、孤独死を防ぐ。 C) 単身世帯の把握、地域での人間関係図の作成。 D) 情報、趣味、特技等を把握しながら、独居高齢者などとの接点を探る。 E) 積極的に独居高齢者の行事参加を呼び |

| | | |
|---------------------|-------------------------------------|---|
| | | <p>かける。</p> <p>F) 高齢者がコミュニケーション取れる場（サロンなど）を作り、その場を見守り活動の拠点とする。</p> <p>G) 団体での活動（男性も入れるサロンなど）を紹介し、頻繁に会う機会を作る。</p> |
| | ② 地域に助けを求めることに抵抗がある。行政の方が頼りやすい。 | <p>H) 近隣住民の状況を理解し、介護者に頼ってもらえるような環境をつくる。</p> <p>I) 見回り、声掛けを行い、介護者・被介護者の話を聞く。</p> <p>J) 困っていることを共有しやすい空気づくり。方法を見つける（回覧板など）。</p> |
| | ③ 高齢者が行政のサポートに頼りきりになると地域のつながりが薄くなる。 | K) 地域での困りごとの把握とスキルを持った人をリスト化し、マッチング、コーディネートする。 |
| | ④ 要配慮者に対し、支援者も高齢になった場合、誰が支援者となるのか。 | L) 困っている人と助けられる人をアンケートで把握し、つながる方法を作る。 |
| その他 (民間) | ① 地域に助けを求めることに抵抗がある。行政の方が頼りやすい。 | <p>A) 自治会、地域とつながりのない人達との繋がりを、NPO活動の中で作る。</p> <p>B) 福祉施設との連携を図る。</p> <p>C) 宅食+見守り、郵便+見守りなど、ついでの見守りサービスを進める。</p> <p>D) 高齢者のうつ病やアルツハイマー患者への民間病院との連携を強化する。</p> |
| 行政 | ① 独居高齢者の安否がなかなかとれない。 | <p>A) 独居高齢者に（半年に一度ほど）連絡したり訪問したりして安否確認する。また、福祉が必要そうだと判断すれば、福祉施設を紹介する。</p> <p>B) 自治会、民生委員と連携し、全国での先進的な取り組みの情報提供等、側面的サポートをする。</p> <p>C) 行政と近隣住民が連携して独居高齢者の家族に見回りロボットを取り入れ、モニタリングする。</p> <p>D) 独居老人等の情報を把握し、自治会に提供する。</p> |
| | ② 介護者は一人でストレスを抱え込んでしまいがち。 | <p>E) 訪問を定期的に行いサポートする。</p> <p>F) 被介護者の状況に応じて、要介護認定を</p> |

| | | |
|--|---|---|
| | | 受ける手続きの紹介、相談センターやデイサービスの案内を行う。 |
| | ③ 高齢化社会なので、行政サービスを充実させればさせるほど赤字に繋がる。また、地域で助け合わなくなる。 | G) 行政サービスと自治会等のサポートとのバランスを見つける。 H) 何でもサービスをするのがいいという事でもなく、継続することが重要。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 行政サービスを充実させることはもちろん大事だが、集団回収など地域の人たちの力によって行われていたことを、すべて行政に任せて、地域の人に頼らなくなった場合、その分、今まであった地域の助け合い、繋がりなくなる恐れがある。地域のつながりは一度なくなると再び築くのは困難である。結果として自治会の存続や行政の赤字に繋がる。

《その他の課題》

- (1) 既存の救済制度からもれた要介護認定のない独居高齢者への対応をどうするか（災害時、孤独死、身近なところで爪切り）。

《その他の意見》

- (1) 「解決する方法」が介護者・被介護者互いにストレス・負担を抱えている方々にとって救いになれば良い。

課題

【外出困難者のサポート不足】

5

高齢や障がいなどにより、買い物やごみ出しなど、外出が困難な方が今後ますます増加していくことが想定されるが、それをサポートする仕組みが不十分である

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|---|---|
| 個人 | ① 高齢者の移動支援、手段が限定的で、外出しにくい。 | A) 公共交通を利用する。 |
| | ② 銀行や市役所、バス停まで歩けない。 | B) 買い物の選択肢（ネットスーパー・個別配送など）を増やす。 C) 買い物に行きづらい人々の手助けができる方法を考える。 D) 誰かに乗せてもらう。簡単に（電話1本）予約できるシステムを作る。 |
| | ③ コロナ禍、高齢者の運動機能と認知能力の低下により、ごみ収集時にごみをステーションまで持っていけない。 | E) 「ふれあい収集」を知らない制度対象者へ教えてあげる。 F) 「ふれあい収集」の制度対象にならない独居高齢者や病気などによる一時的なゴミ出し困難者を、地域や民生委員などと協力して助ける。 |
| | ④ 「ふれあい収集（ごみ収集福祉サービス）」は、要介護1から5の認定を受け、ホームヘルプサービスを利用している人の燃えるゴミのみが対象であり、救済制度から漏れているゴミ出し困難者が大勢いる。 | G) ごみ出しの時に、玄関にヘルプの旗を立て、近隣住民に知らせる。近所の人はそれを見かけたら、ごみを持っていく。 H) 体力アップトレーニングを続ける。 |
| 地域 | ① いつまでも、助けていた人が、助けられる状況でいられない。 | A) 困っている人と助けられる人をアンケートで把握し、つながる方法を作る。 |
| | ② 高齢者の移動支援、手段が限定的で、外出しにくい。 | B) 地域の中で、運転手となる地域住民有志が車で出かける用事のあるタイミングで、送迎希望住民をマッチングさせて、乗り合わせて移動する「地域住民助け合いによる乗合マッチング」の仕組みを導入する |
| | ③ 地域で「乗合マッチング」システムを作っても、送迎者に得がない。 | C) 近所の乗合で買い物などに行くアプリを導入し、送迎してもいい人はアプリに登録し、送迎することでポイントが貯まり、買い物等でキャッシュレス決済でき |

| | | |
|-------------|--|---|
| | | るような仕組みを作る。 |
| その他 (民間) | ① 地域での「乗合マッチング」システムの導入には人的・物的な限界があるのではないか。 | A) タクシー会社と連携し、空いている時間を活用し、指定の電話番号で予約し、配車してもらう。 B) スーパーなどと連携し、買い物バスを運行する。 |
| | ② ごみ出しを手伝う際に、オートロックだと他人が出入りするのが難しい。 | C) シルバー人材センターにゴミ出しを委託する。 |
| 行政 | ① 高齢化社会なので、福祉サービスを充実させればさせるほど赤字に繋がる。 | A) 何でもサービスを展開するのがいいという事でもなく、継続的にできるサービスをすることが重要。 |
| | ② 行政サービスが充実しすぎると、地域で助け合わなくなる。 | B) 行政サービスと地域コミュニティとのバランスを見つける。 C) 行政側から独居老人などの情報を把握し、自治会と情報共有する。 |
| | ③ 市バスの運行で予算が手一杯。 | D) はっぴいバスを増便させ、市内での買い物客を増やすことができれば、市内の店舗も潤い、増税につながる。 |
| | ④ 既存の行政の制度や事業（ふれあい収集など）を知らない人が多い。 | E) 広報・HPでの周知。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) ふれあい収集の制度は初耳だった。知らない人が多いと思う。地域力によって、ごみ収集の課題を解決する、素晴らしい取り組みだと思う。これらを行政に任せてしまうことはどうかと思う。集団回収など地域の人たちの力によって行われていたことを、すべて行政に任せて地域の人に頼らなくなった場合、その分、今まであった地域の助け合い、繋がりがなくなる虞（おそれ）がある。地域のつながりは一度なくなると再び築くのは困難である。結果として自治会の存続や行政の財政負担も増える虞（おそれ）がある。

(イ) 既存の行政の制度や事業があるが、それらを知らない人たちがいる。制度を知らない人たちに、地域の人が教えて、制度とつなげてあげる。

《その他の課題》

- (1) 移動販売、個別配送を利用する方が良いのか、自分で買い物をできる（手伝う）方が良いのかという、選択肢が問題（前者は便利だが引きこもりになるおそれがある）。
- (2) 道が狭く、歩道では、すれ違えない狭さ（アゼリア通り特に阪急長岡天神駅西側周辺）。
- (3) アゼリア通りを高齢者が信号も横断歩道もないところを横切るので危ない。
- (4) 車いすでの通行が車道へはみだしており、非常に危険。
- (5) 自転車に乗る子どもが、細い道から飛び出してくる。
- (6) 高齢者の交通事故

（個人ができること）

- ・歩車（自転車）分離の意識を持つ。
- ・安全運転を心がける。
- ・高齢になったら免許を返納する。
- ・自転車や歩行者に反射板をつける。
- ・横断歩道を渡る時は、高齢者も渡る意志をドライバーに伝えるため、手を上げる。

（行政にできること）

- ・交通安全の啓発・広報活動。
- ・免許返納者に対する特典を設ける。

（その他民間等でできること）

- ・JR長岡京の地下通路のようにテープを流す。

第4班 子ども・子育て

1 会議開催概要

(1) 第1回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2020年12月12日（土）13:30～16:00
- イ 会場：バンビオメインホール
- ウ 参加者：20名
- エ 概要：自己紹介、学校、市内のWi-Fi環境について
子どもの遊び場、学習できる場所について
子ども会、地域とのつながりについて

(2) 第2回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年4月10日（土）10:00～12:30
- イ 会場：産業文化会館3階会議室1・2
- ウ 参加者：14名
- エ 概要：自治会・協働について
子どもの過ごし方・市の子育て支援施策について
グループワーク
- オ 市説明者：自治振興室（自治会・協働について）
健康づくり推進課
子育て支援課（子どもの過ごし方・市の子育て支援施策について）

(3) 第3回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年7月4日（日）14:00～16:30
- イ 会場：長岡京市立図書館3階会議室
- ウ 参加者：16名
- エ 概要：グループワーク テーマ1「家庭環境に関する課題」
テーマ2「子どもや保護者の居場所づくりに関する課題」
テーマ3「子ども同士や世代間交流に関する課題」
テーマ4「親子の健康や保健に関する課題」

(4) 第4回自分ごと化会議

- ア 開催日時：2021年8月7日（土）13:30～16:00
- イ 会場：産業文化会館1階大会議室

ウ 参加者：17名

エ 概要：市民活動団体の活動内容と抱えている課題について

グループワーク 共通テーマ「子どもの居場所がない」

テーマ1「共助システムの弱体化（担い手不足）」

テーマ2「地域活動の情報発信不足」

テーマ3「地域間の連携不足」

テーマ4「子育て相談の場がない」

(5) 第5回自分ごと化会議

ア 開催日時：2021年10月23日(土)13:30～16:00

イ 会場：開田自治会館

ウ 参加者：10名

エ 概要：提案書案の確認

2 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

課題

【共助システムの弱体化（担い手不足）】

- 1 自治会・子ども会・PTAなどの共助として機能していたシステムが、担い手不足、ライフスタイルの変化で機能しにくくなっている

課題

【地域活動情報や行政情報が伝わらない】

- 2 地域活動情報や行政情報は、回覧板や広報誌が主であり拡がらず、必要な人に必要な情報が伝わっていない

課題

【地域活動組織の役割が不明瞭、団体間の連携不足】

- 3 自治会、地域コミュニティ協議会等の役割や活動内容が理解されていない
また、団体間の情報が共有されておらず、連携できていない

課題

【子ども同士や親同士が交流する場がない】

- 4 相談や気軽に息抜きをできる場所が親も子もなく、孤立しがちである
個人・地域・学校（行政）の連携もうまくいっていない

課題

【子どもの居場所が少ない】

- 5 子どもがのびのびと遊べる場所や、勉強できる場所など、子どもの居場所が少ない
地域や学習塾などとも連携した子どもの居場所づくりが必要

課題

【共助システムの弱体化（担い手不足）】

- 1 自治会・子ども会・PTAなどの共助として機能していたシステムが、担い手不足、ライフスタイルの変化で機能しにくくなっている

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 今の子どもたちを含む若い世代の生活様式が変わってきており、仕事をしながらコミュニティの仕事もやるのは厳しい。 | A) 今回の会議のように、自分から動かなくても、案内があれば動くという人は多いと思うので、無作為で市民を集めた会議を開催し、様々な人に地域のことを自分事として考え、市民同士の議論を行う。 |
| | ② 自分の興味のある分野で、つながりがあればそれでよいと考える人が多く、他者への理解が進まない。 | |
| | ③ 関わりを持とうとしても交流や情報を得るところが分からない。 | |
| | ④ そもそも2～3年住んでいるが、一度も自治会とからみが無い。 | B) 地域の気付きに対して、どう関わりを持ってもらうか。関わりができると声が掛けやすくなる。 |
| | ⑤ NPO法人や福祉活動に積極的に参加しながらも自治会活動に反映できない。 | C) 自治会活動や府の社会活動を上手く使って、意見交換の場から実践に働きかける。 |
| 地域 | ① 地域にどのような人が住んでいるのか把握できなくなっている。 | A) 回覧板でもチラシでもいいからきっかけが必要。 |
| | ② 自治会850世帯のうち、高齢者世帯が600世帯となっている。活動に関わる30～40代が少ない。 | B) ごみステーションの当番などで、できていないところがあればできる人でフォローしている。年齢が高くても元気な人はいる。 |
| | ③ 将来的に、今までと同じやり方では、存在意義がなくなるのでは。 | C) 今までの仕組みを変えていかないと今まで通りでは済まない。仕組みを変えるきっかけが条例になっていくはず。 D) 昔のとおりにしよとうまうまいか。変えないといけないうまいか。変えないといけないうまいか。変えないといけないうまいか。 |
| | ④ 自治会や子ども会はあってほしいけれど、働きながら役員になるのは無理。 | E) 地域によっては自治会の運営をNPO法人に委託しているところもある。 F) 役員の負担感のイメージを変える。 |

| | | |
|---------------------|---|--|
| | ⑤ 子どもが中学生になるタイミングで、子ども会と同時に自治会からも退会する。 | G) 自治会加入に関するメリット（防災など）を伝える。 |
| | ⑥ 子ども会は自治会の下部組織のような位置づけで、お金も自治会から出ているため、容易に企画を変えられない。 | H) 自治会・子ども会に対する意識が変わってきており、子ども会に限らず、サークルなど様々な活動の方法を模索する。 |
| | ⑦ 自治会が、地域のあらゆること（防災・防犯・環境・子育て・福祉など）をするとすると、手が回らない。 | I) 自治会（地縁組織）と各分野の専門性を持ったテーマ型組織の結節点を増やしていく。 |
| その他 (民間) | ① 多くの市民活動団体でも担い手が減少。 | A) 高齢者を社会資源として活用する。 |
| 行政 | ① 地域活動団体の中心となってコーディネート（地域活動団体同士のつなぎ役）する役がない。 | A) 市が地域活動団体の中心となってコーディネートする。 |
| | ② 市内の地域活動団体（市民活動団体、NPOなど）を把握しきれていない。 | B) 市民活動団体の全容を把握する。 |
| | ③ 場所・機会の提供だけでなく、活動をけん引することが必要。 | C) 高齢者への公民館の開放（お茶のみ話） D) コーディネイトできる人の養成。 |
| | ④ 何でも自治会任せになっていないか。 | E) KPIを定め、自治会や個人へ働きかける。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 長岡京市の市民は色々新しいことに挑む人が多いので、（行政と市民等の連携活動に参加してもらえるように）支援をしていくことが大事。
- (イ) 今回の会議の無作為抽出のように、自分から動かなくても、案内があれば動くという人は多いと思う。
- (ウ) 場所や機会づくりだけでなく、ワクワク感を持たせるような時代にあったイベントを、自治会や地域コミュニティ協議会と市と一緒に作っていかないか。
- (エ) 市民団体の担う公的な活動を認定することで、高齢化の進む自治活動の活性化を図る。

《その他の課題》

- (1) 自治会・子ども会と子育て世代との関わりの問題はどこの地域でもある。
- (2) 行政が求めるものが、地域を介し、個人まで行き渡りしているのか。

【地域活動情報や行政情報が伝わらない】

- 2 地域活動情報や行政情報は、回覧板や広報誌が主であり拡がらず、必要な人に必要な情報が伝わっていない

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|---------|---|---|
| 個人 | ① 主体的な情報収集者だけではなく、受動的な人に対する情報発信が不十分（市政への関心が低く、つながりがない方や、知りたい情報をどこで調べればよいのかわからない方など）。 | A) 日頃から市政を話題にする。 B) 詳しい方から話を聞いたり、良い情報を知人に教えたりする。 C) 広報を読んでみる。 D) 長岡京市のLINEを登録する。 |
| | ② 色々な情報が散乱し、判断が難しい。（フェイスニュース等） | E) 市のHPを調べたり、市のSNS（LINE・Facebook）に登録して調べたりする。 |
| | ③ 他地域（他自治会）の人とあまり交流がない。 | F) 他地域の人とも積極的に声かけする。 |
| 地域 | ① 地域の情報は、回覧板が主で拡がりがない。回覧板が、記載された内容に関する期日までに、回ってこないこともある。（開本自治会では、不急のものはまとめて月2回回覧している。学校関係のものは、町内の掲示板に掲示している。） | A) 自治会や地域コミュニティ協議会の活動内容をSNSで発信する。 B) 地域の広報をNPOなどに委託する。 |
| | ② 地域活動の情報発信不足により、様々な取り組みを行っても、参加者が増えない。 | C) 大事な情報等で、回覧と掲示板、SNS（LINE・Facebookなど）を使い分ける（重要な情報のみ回覧する）。 |
| | ③ 自治会に入っていない方への情報発信はどうするのか。 | D) 自治会や地域コミュニティ協議会の活動内容をSNSで発信する。 E) SNSに登録してもらう仕組みが必要。 |
| | ④ 地域内の人との関わりは、必要最小限にとどめたいという気持ちがある。 | F) 子ども、若者、高齢者、住民全体の孤立を防ぐため、SNSでコミュニティの場を設ける。見守り活動につなげていく。 G) SNSを顔がみえない人の交流の場とするのではなく、そこからリアルの活動へつなげていく。 |
| その他（民間） | ① 市民活動サポートセンターに情報ファイルはあるが内容が乏しく活用しづらい。 | A) 登録団体が把握しやすいツールを作る。 |
| | ② 色々な活動を行っているが、その活動内 | B) 行政や地域と活用・連携した積極的な活 |

| | 容が求める人へ伝わっていない。 | 動内容のPR。 |
|-----------|---|---|
| 行政 | ① 市の情報発信力が低い。広報誌が必要のない情報や事後報告ばかりで、読まれていない。仕組みがあっても結局PR力がなると知られない。 | A) 市民団体等の活動内容の情報収集に努める。 B) 広報誌を全戸配布する。 C) どの情報を誰に対しどのように伝えるかを考える（40代以下の世代はSNSの方が見やすい）。 D) HP・SNS（LINE・Facebookなど）による情報発信を充実させる。 E) SNSに登録してもらい仕組みが必要。登録した時のメリットをつける。 F) ビール券・クーポン券、懸賞等で興味を持ってもらう。 G) 子育て支援情報「リンクブック」のデジタル化等の活用範囲強化推進。 |
| | ② 行政はすべての情報を強弱付けずに一律に扱っている。 | H) 行政の情報を通訳し、担当部署（具体的な連絡先）を案内できる人が必要。 |
| | ③ 問題を調べるのに、情報が色々なところに分かれている。 | I) 市が中心となり地域情報を一元化し、SNS等に公開する。 J) 行政からの発信だけでなく、困りごとを書き込めば担当課に繋がるような仕組みを作る。 |
| | ④ 地域担当窓口が不明。 | K) 地域の困り事などを、この部署に相談すれば、そこから各専門部署に繋いでもらえる。そういった部署を設置する。 |
| | ⑤ LINEの活用の担当が広報発信課で一括となっている。 | L) 各担当部署で情報発信担当をつくり、市民への情報発信や困りごとなどの相談を受け付け、担当部署それぞれで協働の機会をつくる。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 地域活動団体へのサポートをさらに充実させる必要がある。しかし、そもそもお金や人材、場所に関するサポートがあるということが知られていない。
- (イ) 地域で困っていることがあっても、どうしていいのかわからない人もいると思う。そんなことを一括して活かせる行政窓口の人がいると、地域の繋がりを作りやすいと思う。個人も地域も民間も行政も人と人との繋がりでと思う。
- (ウ) ホームページやSNSは、スマホ・パソコンを持っていない方は利用できない。そういった方も含めて、どうすれば伝わるのか。世代によって情報を取得する媒体が違う。

《その他の課題》

- (1) 地域の立ち話で情報が伝わっていくことも無くなっている。地域の担い手が不足している状況で、発信者側は大変だと思う。
- (2) 若い年齢層と正しいSNS活用方法を語る場をつくる。
- (3) 世代によって情報を取得する媒体が違う。
- (4) SNSを解決策にしてしまうと、広がりが無い。SNSは繋がるきっかけ。
- (5) コロナ禍で教育委員会が何を考えているのかが分からなかった。保護者は発信が不足していると感じている。

課題

【地域活動組織の役割が不明瞭、団体間の連携不足】

3

自治会、地域コミュニティ協議会等の役割や活動内容が理解されていない
また、団体間の情報が共有されておらず、連携できていない

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|---------|---|--|
| 個人 | ① 自治会や地域コミュニティ協議会など、地域組織のつながりがわからない。 | A) 詳しい方から話を聞いたり、良い情報を知人に教えたりする。 |
| | ② 子育て世帯の方々は、地域コミュニティ協議会のことをあまり理解できていない（地域コミュニティ協議会は、自治会を中心に年配の方が多く頑張っている） | |
| 地域 | ① 自治会や地域コミュニティ協議会の違いが理解されていない。 | A) 地域コミュニティ協議会の活動内容を具体的に伝える場、方法が必要。 B) 団体同士の交流や合同での取組みがあればよい。 |
| | ② 地域コミュニティ協議会の権限が弱い。 | C) 地域コミュニティ協議会の権限と役割をもっと明確に条例で定義する。 |
| | ③ 地域コミュニティ協議会がない小学校区がある。 | D) 小学校区に1つは地域コミュニティ協議会を設立するという内容を条例で定める。 |
| | ④ 地域間の繋がりが少なく、情報の共有が難しい。 | E) 他地域と共同でイベントなどを開催することにより、他地域との関係を構築していく。 |
| | ⑤ 地域において、連携する組織や団体と、連携する対象の人たちがミスマッチを起こしている。 | F) 地域コミュニティ協議会が地域全体をまとめ、行政と連携していく。 G) 地域コミュニティ協議会が、地域の中核になって情報発信していく。 |
| その他（民間） | ① 民間企業や市民活動団体の活動内容が、自治会や地域コミュニティ協議会に伝わっておらず、連携が薄い。 | A) 地域コミュニティ協議会との関りを増やしていき、連携して活動していく。 B) 地域コミュニティ協議会への市民団体の参加を推進する。 |
| 行政 | ① 市と地域が連携していない。 | A) 市がリーダーシップをとって、市・学校、自治会・地域コミュニティ協議会の連携を図る。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 長岡京市に長く暮らしていても、行政と連携する地域の組織のことにについて知らないことが多く、地域活動にも参加できないでいる。
- (イ) 行政と地域コミュニティ協議会、その他各地域活動団体の役割を明確にし、お互いのメリットを理解する。

《その他の課題》

- (1) 学校の子どもや民間企業とのかかわりが弱い。

【子ども同士や親同士が交流する場がない】

4

相談や気軽に息抜きをできる場所が親も子もなく、孤立しがちである
個人・地域・学校（行政）の連携もうまくいっていない

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|--|---|
| 個人 | ① 子どもの困りごとができた時に気軽に相談できる場がない（特に小学校に上がって以降）。 | A) 子育てガイドブックを見る。 B) 自治会を巻き込んで声を届ける。 C) 外部の支援、地域の力を使って、他の支援機関や市民団体、民間企業とも連携を取って支援を必要とする親子と行政をうまくつなげるシステムを構築する。 D) 上記Cのためにもそれぞれの役割を明確にすることが重要。 E) 子育て支援の資源を調べ、足を運ぶ。 |
| | ② 子どもに悩みがあったときに、福祉・障がい・医療どこに相談したらいいかわからない。 | F) とりあえず「ここに行けば」というものがあれば、ここにいけばと割り振ってくれるところが必要。 |
| | ③ 今は専門性に特化しすぎて、幅広く「なんでもあり」で相談できるところがなくなってしまった。 | G) 些細なことでもいいからここに相談できるという場があり、そこに集まった人を、悩みに応じ、コンシェルジュが振り分ける。 |
| | ④ 保護者への情報が少ない。相談先や要望を伝える場がない。 | H) 保護者と当事者と専門家（医療・福祉・療育・教育委員会・自治会）などの対話の場をつくる。 |
| | ⑤ 全然知らない人に悩みを打ち明けづらい。今ははっきりと「こういう場所です」というところでなければ相談しづらい。 | I) 第3者の相談窓口が必要。 J) 昔の寺のように、困ったときに頼れる場が必要。 |
| | ⑥ 親子のコミュニケーションの機会が、電子媒体の技術の発達や、夫婦共働きなどにより、減少している。 | K) 大人が子ども目線になる。 L) 子どものアイデアを聞く。 M) 物に使われるのではなく、使うという意識を忘れない。 N) 子と親のかかわりを持ってくれるサポーターを探す。 |

| | | |
|----|---|--|
| | ⑦ 子育て中の親が息抜きできる場や、親同士、世代間の交流の場が知られていない。または利用する際に不安もある。 | O) ママの会で情報共有する。 P) 無料または低料金で利用できるところを調べて、集まった情報を一覧にし、多くの保護者と共有する。 |
| | ⑧ 子どもに対して、気持ちの余裕を持って接しにくい。 | Q) 自分が父親・母親としてではなく、一人の人間として過ごせる時間を作る。 R) 声掛け、相談できる相手を作る。 |
| | ⑨ 最近では学校帰りの子どもたちに挨拶をしても返してくれない。自分が不審者扱いされてしまう。 | S) それでも毎回声を掛け続けていると、そのうち子どもたちから挨拶してくれるようになる。 T) 声掛けはすごく大事。それが関わりのきっかけになる。 |
| | ⑩ 保護者にとってのPTAの必要性が分からない。PTAがなくなっても学校が動いていきそう。 | U) PTAでやりたいことを提案でき、それが実現できるようにする。 |
| | ⑪ 自分が親になった時にどう思うのか、それはなってみなければわからないこともある。 | V) 身近にいる母親たち、祖母たちから話を聞いたり、体験記を読む。 |
| | ⑫ 望まない妊娠をしてしまった女性のサポートがあまりない。 | W) 子と親の関わりを持ってくれるサポーターを探す。 |
| 地域 | ① 親子や世代間で交流できる場が少ない。 | A) 親子で楽しむイベントを企画する。 B) イベントの企画に子どもも参加する。 |
| | ② 地域のなかでの世代間交流や自治会や子ども会などはあまり変わっておらず、そのマッチングがうまくいっていない。若い世代が団体や組織との接点を持たずに来ている。 | C) 子ども会と高齢者をつなげる。 D) 高齢者を社会資源として活用する。 E) 社会福祉協議会が行っている地域支援活動イベントに今年は開本自治会として子ども会と一緒に参加したい。 F) お兄さん達がネットの使い方を子どもや高齢者に教える講座を開催。 G) 自治会館を子どもと子育て中の親の居場所として開放する。 |
| | ③ 現役の子育て中の親子以外は、現状を知らない。 | H) 子ども達の毎日の生活、行動範囲がどうなっているのか、困りごとが何なのか知る場をつくる。 I) 30～40代の現役世代の声を共有する場をつくる。 J) 保護者と自治会役員が腹を割って話せる場をつくる。 |

| | | |
|-------------|---|--|
| | ④ それぞれの家庭に子育ての責任を押しつける雰囲気がある。 | K) 地域ぐるみで助け合いの精神を持てるコミュニティの場を形成する。 |
| | ⑤ 子どもが困っている家庭の親は声を掛けづらく、声を掛けても反応が薄い。 | L) 自治会等で声掛け、相談できる相手を作る場を作る。 M) 相談できる社会資源へつなげる。 |
| | ⑥ 子ども会の活動で子どもの数が減っており親の負担が多い。 | N) 子ども会を子どもが企画・運営し、責任感と連帯感を育む。 O) 子ども会を有志の高齢者が手伝えるようにする。 |
| | ⑦ 望まない妊娠をしてしまった女性のサポートがあまりない。 | P) 地域が相談できる施設や人へつなげる。 Q) 万が一の場合、子育て経験のある方に身を寄せられるようにする。 |
| その他 (民間) | ① 親子や世代間で交流できる場が少ない。 | A) 世代間交流に関する活動を行っているNPOを調べる。 B) 社協・ひとつなぎ活動の「ハロウィン」に子ども会が参加する。 |
| | ② 子育て支援に係る保護者の団体の場合、自分の子どもが成人すると続けることが難しい。当事者だから活動できる。 | C) ノウハウが蓄積されているので、続けられる資金と相応の報酬が必要。 D) 親は当事者に相談したいと思う。そうなると、市民活動団体が重要。 E) 市民活動団体に市職員のOBを派遣して事務をやってもらおう。 F) 団体へのサポート(お金・人材・場所)をさらに充実する必要がある。 |
| 行政 | ① 親子や世代間で交流できる場が少ない。 | A) 公民館を開放する。 B) 地域などで各種イベント等を開催する際、地域の有志の方を対象に、子どもに接するときの講習会を開催する。 |
| | ② 校長の考えで、各学校によってやり方がだいぶ違う。意見を言っても反感を買う。当事者だから意見を言いたいの、当事者だから角が立つ。 | C) 保護者が学校に言って少しずつ変えてきている。学校と保護者の何でも言い合える対話の場が必要。 D) 教育委員会だけでなく、医者、福祉の方、療育の関係者と一緒に対話ができる場が必要。 |
| | ③ 小学校では合理的配慮をしてもらっていたのに、中学校ではそれが認められない。 | E) 幼稚園から学校まで、切れ目なく連携する。 |
| | ④ 学校は、受験勉強中心で、事なかれ主 | F) 子どもの発達に応じた勉強を教える。 |

| | |
|--|---|
| 義。 | G) 子どもに関する小学校での問題は、中学校へつなげる。 |
| ⑤ 学校が相談の場になればいいが、既にスペックオーバー(外国では授業さえ、勉強を教えればいいという。日本の教員はかけもちしすぎている)。 | H) 学校内に相談所を設置し増やしていく。 |
| ⑥ いじめについて、学校だけの対応は難しい。学校との意思疎通ができていない。 | I) SNSを活用し、気楽に相談できる相談所を設置する。 J) いじめだけではなく、医療などのネットワークを構築し、大人(市民)の相談所を設置する。 K) 不登校・いじめの専門団体と連携する。 |
| ⑦ 子育ての悩み・困りごとがあったときに、子どもを連れて市役所の子育て支援課まで行くのは大変。 | L) SNSを活用し、気楽に相談できる相談所を設置する。 M) 悩み以外にも、医療関係、行政、学校の問題を相談できる場やネットワークが必要。 |
| ⑧ 義務教育課程に入ると、子どもの困りごとができた時に気軽に相談できるところがわからなくなる。 | N) 親子それぞれのメンタルケアのワンストップのサポートを設置し、匿名での相談も受け付ける。 |
| ⑨ 市も困ったことがあれば相談してくださいと言っているが、伝わっていない。そういった人をどうやって引っ張り上げるか。 | O) 個人情報の漏洩を防止する策を立てながら、子育てサポートをする制度等の紹介、手続きの案内。 P) 相談の場がないというよりも知らないだけなのではないか。改善策は相談の場を作るのではなく、知ってもらうこと。 |
| ⑩ 望まない妊娠をしてしまった女性のサポートがあまりない。 | Q) 病院や子育て支援の補助金を交付する。 R) 個人情報の漏洩を防止する策を立てながら、子育てサポートをする制度等を紹介する。 |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 行政、市民団体、民間企業、その他外部支援機関が連携し、地域の支援を必要とする親子に、しっかりと支援が行き届くようにするためには、それぞれの役割を明確にする必要がある。
- (イ) 市は「困ったことがあれば相談してください」と言っているが、市民に伝わっていないと思う。
- (ウ) 子育て世代の願いや意見を教育・福祉などの市政に反映していただくために、市民と専門家による意見交換や情報提供の場を定期的に（時には状況に応じて臨時に）設定する。

《その他の課題》

- (1) 相談場所を学校ごとに設置した方がよいのか、学校以外に設置したほうがよいのか、子どもが本当に気軽に相談できる場所を作ってあげたい。
- (2) 自治会を担っているのは年配の方が多い。その人が聞く耳を持つとどうするか。それができている地域は話の中心が子育て世代になってくる。
- (3) スクールカウンセラーがいても相談しづらい。
- (4) 障がいのある子の親同士のコミュニケーションができる場所がない。

【子どもの居場所が少ない】

5

子どもがのびのびと遊べる場所や、勉強できる場所など、子どもの居場所が少ない
地域や学習塾などとも連携した子どもの居場所づくりが必要

| 担い手 | それぞれの課題 | 解決する方法 |
|-----|---|--|
| 個人 | ① 子ども達がのびのび遊べる場所が少ない。特に屋内施設で子どもが気軽に利用できる場が少ない | A) 公民館や自治会館を有効活用する。 B) 辛いことや親の悪口など、いろんなことを話せる場があることで子どもたちは回復していく。 C) 遊び場等の情報をSNS等で周知をする。 |
| | ② 悪天候時の放課後や休日に過ごす場所がない。 | D) オンライン通信を利用した遊びに切り替える。 |
| | ③ TVゲーム、カードゲームなど屋内遊戯の流行により、子ども達の外遊びが減少している。 | E) 公園等、友人と集まりやすいところに足を運ぶ。 |
| | ④ コロナ禍において子どもの遊べる場所が減少または規制が厳しい。 | F) 色々な施設を、コロナ禍でも、感染症対策をきちんとし、使用中止ではなく使えるように行政へ要望する。 |
| | ⑤ コロナ禍におけるひとり親サポートが不十分。 | |
| | ⑥ 各家庭における塾の費用等、教育費がかかりすぎる。 | G) 地域と行政が連携して、地域の中で学習サポートの会などのような家庭学習支援や、スマホ・パソコン等各種教室、パソコンの貸し出し等ができる仕組みをつくる。 |
| 地域 | ① TVゲーム、カードゲームなど屋内遊戯の流行により、子ども達の外遊びが減少している。 | A) 屋内遊戯よりも魅力的な施設を提供。 |
| | ② 公民館や自治会館を活用できていない。 | B) 公民館や自治会館で、子どもが勉強できるように自治会として提案する。 |
| | ③ 子ども会に参加するメリット、保護者と子どものニーズが変わってきている。 | C) 学童保育は放課後に子どもを預かってもらえるが、子ども会で放課後の居場所を設ける。 |
| | ④ コロナ禍におけるひとり親サポートが不十分。 | D) 見守るパトロールの時間を決めて、子どもの安全を確認する。 E) 子ども食堂のように帰りの遅い親の |

| | | |
|-------------|--|--|
| | | サポートをする。 |
| | ⑤ 各家庭における塾の費用等、教育費がかかりすぎる。 | F) 地域と行政、NPO等が連携して、地域の中で、学習サポートの会などのような家庭学習支援や、スマホ・パソコンなど各種教室の開催、パソコンの貸し出しなどができる仕組みをつくる。 |
| その他 (民間) | ① NPOなどの団体が運営者の思いで運営されており、教育委員会など行政へ伝える場がない。 | A) NPOなど市民団体が市や自治会と繋がるために必要な支援を担う仕組みをつくる。 B) 子ども達がやりたいことをサポーターに繋げる活動が必要(絵が好きな子がパソコンで絵を描けるようになり、それを下の子に教える。習うだけでなく教えることで自己肯定感を育てる)。 |
| | ② コロナ禍におけるひとり親サポートが不十分。 | C) フードバンク長岡京へ食品の提供を依頼する。 |
| | ③ 各家庭における塾の費用等、教育費がかかりすぎる。 | D) 地域と行政、NPO等が連携して、地域の中で、学習サポートの会などのような家庭学習支援や、スマホ・パソコンなど各種教室の開催、パソコンの貸し出しなどができる仕組みをつくる。 |
| 行政 | ① 子ども達がのびのび遊べる場所が少ない。 | A) 児童館や学校などの公共施設を用いて、子どもの居場所を作る。 B) 小学校の空き教室を活用する。 |
| | ② 悪天候時の放課後や休日に過ごす場所がない。 | C) 公民館の有効活用。 D) 公民館など地域拠点のWi-Fi整備 E) 図書館の学習スペースを拡げる。 F) 勉強の場として開放している公共施設を、使用者があまりない場合は、遊び場としても提供する。 G) 放課後の活動として、すくすく教室の回数を増やす。 |
| | ③ コロナ禍におけるひとり親サポートが不十分。 | S) 児童館や学校などの公共施設を用いて、子どもの居場所を作る。 H) 病児保育や一時預かりのサービスを提供している情報を収集し、HPやSNS等で情報提供を行う。 |
| | ④ 各家庭における塾の費用等、教育費がか | I) 地域と行政、NPO等が連携して、地域の |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>かりすぎる。</p> | <p>中で、学習サポートの会などのような家庭学習支援や、スマホ・パソコンなど各種教室の開催、パソコンの貸し出しなどができる仕組みをつくる。</p> <p>J) 地域の有志の方が、子どもに接するときの講習会を開催する。</p> |
| | <p>⑤ 中学校において副4教科のテスト問題が毎年同じらしく、塾では過去問が出回っているのに、塾に通っている子と通っていない子の公平性が損なわれている。</p> | <p>K) 過去問の取り扱い、問題の更新が必要。</p> |
| | <p>⑥ 発達障害や環境因による学びにくさに関し、保護者の理解と周知が不足している。</p> | <p>L) 小学校入学説明会時に行っている「親のための応援塾」にて冊子を配布する。</p> <p>M) 学びにくさや特性に対する偏見や先入観からのいじめや不登校を予防するための対策委員会を設置する。</p> |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 子どもが伸び伸びと遊べる場や勉強できる場が減り、また、子ども会や自治会を退会する親子も増えている。そのため親同士、子ども同士が交流する場が減っており、地域のつながりの希薄化が進んでいる。行政と民間が連携して、子どもの居場所作りができないか。
- (イ) 各家庭において、学習塾等の教育費の負担が大きくなっている。地域と行政、NPO等が連携して、地域の中で学習サポートの会などの家庭学習支援や、スマホ・パソコンなど各種教室の開催。また、パソコンの貸出などできる仕組みを作る。
- (ウ) 子ども会に参加するメリットが変わってきていると思う。学童保育は放課後に子どもを預かってもらえるが、子ども会で放課後の居場所があればメリットになる。保護者と子どものニーズが変わってきている。

《その他の課題》

- (1) 子どもたちと長岡京市内のお店を回って冊子を届けた。そこで出会った人たちがいろんな話をしてくれる。そういった繋がりが子どもたちを育てていくのではないかと思う。このネットワークが長岡京市を育てていく。地域の大人の顔が見える関係性があると、子どもたちも帰り道が怖くない。身の回りの大人の存在が安全に繋がる。
- (2) 自治会・子ども会の活動も一緒だと思う。お祭りはみんなを幅広く集めているが、将棋教室などは将棋の好きな子を集めている。毎回全員を集める必要はない。
- (3) 市が直接やろうとするとどうしても固いのでいろいろややこしくなる。引きこもりの問題などもノウハウを蓄積したらいい。

提 案 書

～まちの課題とその解決策～

～市民等と行政の連携・協力をより良いものにするために～

発行日：令和3年12月1日

発行：自分ごと化会議 in 長岡京

編集協力：一般社団法人 構想日本

〒 102-0093

東京都千代田区平河町 2-9-2 エスパリエ平河町 3F

TEL：03-5275-5607 FAX：03-5275-5617

<http://www.kosonippon.org>

**JAPAN
INITIATIVE**